



北九州市立大学
地域共生教育センター

ラボ・レター

Lab・Letter

活動報告書
2025

ラボ・レターによせて

北九州市立大学地域共生教育センター(通称:421Lab.)は、2010年4月21日の設立以来、地域社会における実践活動を通じた若者の人材育成を図ることを目的として、地域活動に取り組む学生たちを支援して参りました。お陰様でこうした取り組みも2026年4月から17年目に突入しようとしています。

これまで多くの学生たちが主体的に学ぶ姿勢やモチベーションを保ち続けて来られたのも、ひとえに地域の皆様方のご支援・ご協力があったからこそだと感じています。改めてこれまでのご厚誼に感謝を申し上げます。

2025年度は、様々なプロジェクトがこれまでの活動を礎に新たな取り組みにチャレンジした1年でした。例えば「KITAQキャンパスSDGs」では、北方ひびきの連携プロジェクト「北九大エコのたね」を立ち上げ、株式会社タカギ様のご協力のもと、ひびきのキャンパスに新たに浄水ウォーターサーバーを設置しました。またエプソン販売株式会社様に取り組む「KAMIKURUプロジェクト」に参画し、大学内に古紙回収ボックスを設置。紙資源を大学内で循環させる取り組みを開始しました。

「みらいピースプロジェクト」では、戦後80年という節目にあたり「千羽鶴プロジェクト」を実施しました。北九州市立大学の学生や教職員、地域の皆様に折り鶴づくりを呼びかけ、広島にお届けするという取り組みです。多くの方々のご協力により、3,607羽もの折り鶴が集まりました。結果、広島での研修会は学生たちにとって、たいへん実り多いものとなりました。

なお、この取り組みが可能となったのは、同プロジェクトの前身「平和の駅運動プロジェクト」を担当されていた中島俊介先生からのご寄付があったからこそであることを忘れることはできません。この場を借りて感謝の意を表しますとともに、2025年11月、ご逝去の報にふれましたこと、改めてご冥福をお祈りいたします。

さて、学生たちが例年、こうした活動をさせていただくことができるのは、普段、学生たちのことを暖かく、そして厳しく応援して下さる地域の皆様の力があるからこそと考えています。今後も「地域活動を通して将来地域で活躍する若者を育てる」という421Lab.の基本理念を大切にしていきます。学生の成長のために、引き続き変わらぬご支援、ご指導を頂きますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2026年3月
地域共生教育センター長
西田 心平

INDEX

- 3 421Lab.の「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ
- 4 STEP1 事前研修
- 6 STEP2 実践活動
- 8 421Lab.学生運営スタッフ
- 10 KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト
- 11 防犯・防災プロジェクト(MATE's)
- 12 421Lab. わくわくキッズプロジェクト
- 13 こども知育プロジェクト
- 14 『食』から学ぼうプロジェクト
- 15 子ども食堂応援プロジェクト
- 16 動物福祉プロジェクト
- 17 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 18 TFT × KitaQ univ.プロジェクト
- 19 国際交流プロジェクト FIVA
- 20 地域クリーンアッププロジェクト
- 21 まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 22 みらいピースプロジェクト
- 23 421Lab. 英語で遊ぼうプロジェクト
- 24 北九大もったいないプロジェクト
- 25 KITAQキャンパスSDGs
- 26 生理の貧困プロジェクト
- 27 北九州文化観光プロジェクト
- 28 国際開発プロジェクト Thaksina
- 29 〔特集〕みらいピースプロジェクト「折り鶴企画」
- 30 STEP3 2025 地域活動発表会
- 32 STEP4 前期振り返り研修・後期スタートアップ研修
- 34 2025年度トピックス1 「環境ESD演習」
- 36 2025年度トピックス2 西南女学院大学との交流
- 37 2025年度トピックス3 大学訪問
- 38 先輩インタビュー
- 40 REGION×STUDENTS
- 42 421Lab.概要
- 43 「地域活動のタイプ」について
- 44 短期型の地域活動
- 45 短期型地域活動の紹介 私が活躍できる場所、みつけました
- 46 2025年度地域共生教育センター活動記録
- 47 パブリシティリスト・メディア掲載
- 48 地域活動のお申し込みの流れ

421Lab.の「体験だけでは終わらない」ための

4つのステップ

「何を考えるか」から「何を学びとるか」へ

近年、学習のカタチが変化し、教員が一方向に教える講義スタイルから、社会現場での体験活動に主を置いた実習スタイルが増えてきました。421Lab.でも、商店街の活性化や自然環境の保全、伝統文化の継承などの実社会にある身近な課題をテーマとして、専門分野を超えて課題解決に向けた連携が進んでいます。

しかしながら、一般的な実習スタイルでは「体験すること」が目的となりがちであり、本来のねらいである「教育」からずれてしまうこともあります。

421Lab.では、「事前研修」、「実践活動」、「発表機会」、「振り返り研修」というPDCAサイクルを回すことで、学生自身が何を学びとるかを考え、確実に成長するプログラムを備えています。地域活動に関わった学生が取り組んだ課題に興味を持ち、卒業後の進路につながったり、活動で達成できなかった部分を自分の課題として向き合ったりしていくことにつながります。

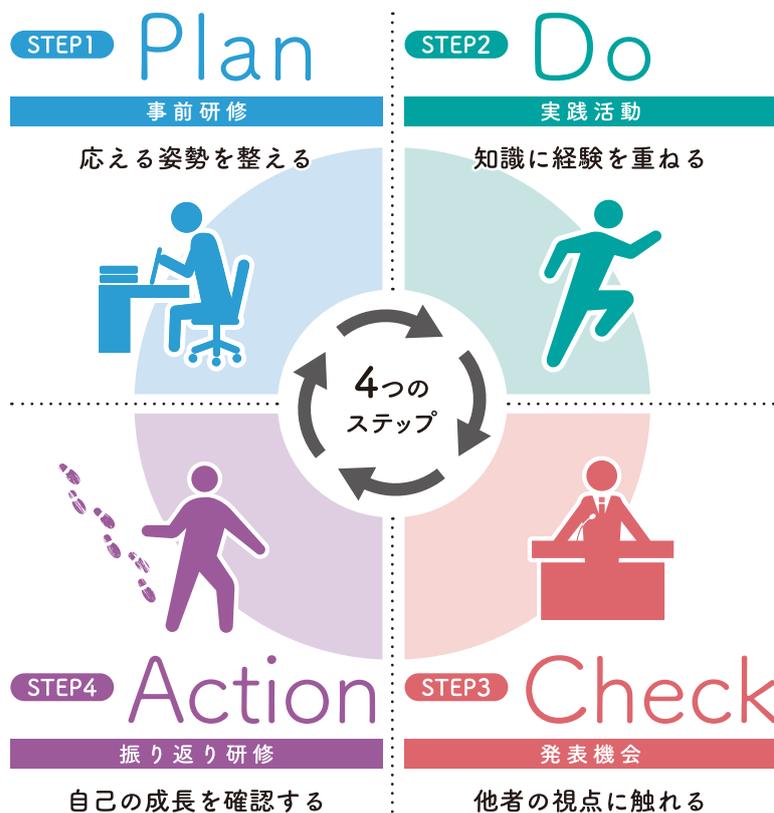
体験するだけで終わるのではなく、学生が「体験を通して学びとる」ことに注力し、学生の成長を応援します。

PDCAサイクルとは

PDCAとは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（分析）、Action（修正）の頭文字をとった造語で、プロセスのサイクルを大まかに説明したものです。

どのような活動でも、ある目的に向かうためのプロセスに当てはめることができ、PDCAサイクルを何度も繰り返すことが活動の改善に直結します。

しかしながら、PDCAを意識せずにいると、Checkまでも到達せずに、与えられた計画に対して実行を続けているのみになります。





STEP 1 Plan

事前研修

事前研修は、地域活動を行うにあたり必要な基本的知識や姿勢、スキルなどを習得することを目的に開催します。昨年度からの継続メンバーと今年度から参加する新規メンバーが、これまでの活動内容や昨年度の反省を共有し、プロジェクトの目的や今年度の目標を確認するために「スタートアップ研修」を行いました。これにより、昨年度までの反省や課題を踏まえて、今年度の活動をより良くすることにつながっています。

01 前期スタートアップ研修 (参加人数195人)

2025年
5月17日
土

前期スタートアップ研修は、プロジェクト支援グループが421Lab.に所属する全てのプロジェクトメンバーに向け、421Lab.の説明を行い、自身の所属するプロジェクトの目的・目標を設定するための研修です。冒頭にアイスブレイクとして、レクリエーションを取り入れることでメンバー同士の距離を縮めるように工夫しました。また、研修ではゴールを常に意識するG-POPというマネジメント手法を昨年度から取り入れており、今年度も昨年度を引継ぐ形で行いました。昨年度の課題点を知っている上級生が、新入生に向けて現状や課題を話すことでイメージを共有することができたと思います。

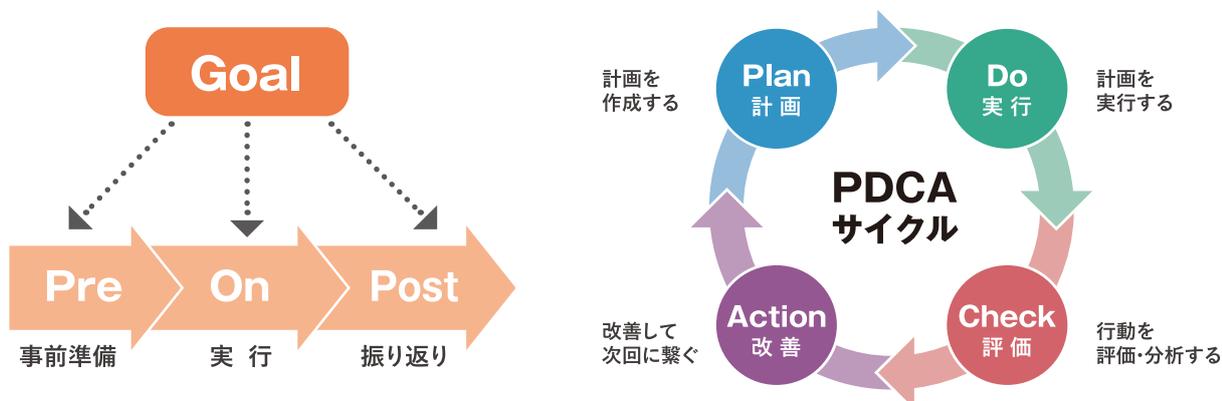
また、新たな取組として、今年度から受入先の方々にも研修会に参加をいただきました。全てのプロジェクトの受入先にご参加をいただく事はできませんでしたが、年度初めの時期に、受入先の方と顔を合わせるだけでなく、目的や活動スケジュールも確認することができ、よりスムーズに活動がスタートできると思います。



1	教員紹介
2	研修の目的・目標
3	PJ生・新PJ生交流会
4	G-POPについて
5	昨年度の振り返り・今年度の目標立て
6	421Lab.から

G-POPとは？

PDCAサイクルとの違い



02 前期リーダー交流会 (参加人数24人)

2025年
6月28日
土

前期リーダー交流会を開催しました。この交流会はリーダー同士の交流を深めることで他プロジェクトのことを知り、学んだ内容を所属プロジェクトに還元し、今後の活動に活かしてもらうことを目的としています。

前期リーダー交流会の流れとしては、まず他のプロジェクトメンバーと交流することのメリットを紹介しました。次に、事前アンケートでいただいたリーダーとしての悩みについて解決策を提案しました。その後、少人数でのグループ交流を2回行い、最後は自由に他のプロジェクトメンバーと話することができるフリー交流タイムを設けました。プロジェクトの枠組みを越えて、リーダー同士が共通して抱える悩み等を共有することで、解決策を考えることにも繋がりました。また、プロジェクト同士の連携の話も進み意義のある研修になったと思います。

また今回は、リーダー交流会後に、大塚製薬(株)さんにお越しいただき、熱中症対策講座を実施しました。子どもと関わるプロジェクトが多い中で、暑さ指数の重要性など、対策に必要な知識を得ることができ、夏前に向けて各プロジェクトに注意喚起をすることもできました。





STEP 2

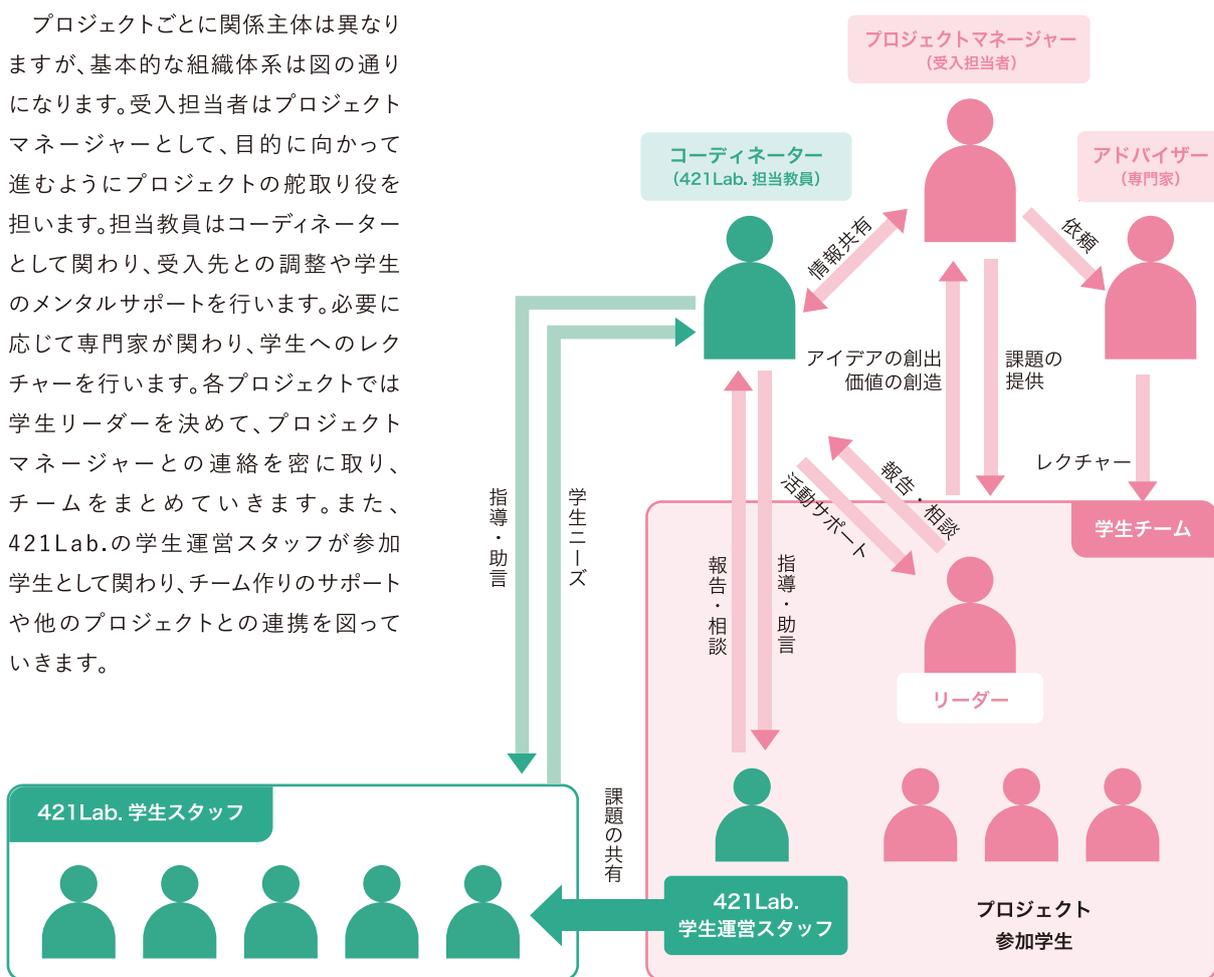
Do

実践活動

実際の活動を通じて、下級生は上級生の考え方や判断力を学び、また経験したことを次なる後輩へと引継ぎます。421Lab. の強みは、このように連綿と継承されるPDCAが存在することです。机上の理論だけではなく、現場の空気から状況を読み解いて判断することができ、地域からも信頼される存在となります。教科書では教えられない経験値（経験や勘に基づく知識）をここで獲得します。

01 実践活動の組織体制

プロジェクトごとに関係主体は異なりますが、基本的な組織体系は図の通りになります。受入担当者はプロジェクトマネージャーとして、目的に向かって進むようにプロジェクトの舵取り役を担います。担当教員はコーディネーターとして関わり、受入先との調整や学生のメンタルサポートを行います。必要に応じて専門家が関わり、学生へのレクチャーを行います。各プロジェクトでは学生リーダーを決めて、プロジェクトマネージャーとの連絡を密に取り、チームをまとめていきます。また、421Lab.の学生運営スタッフが参加学生として関わり、チーム作りのサポートや他のプロジェクトとの連携を図っていきます。



02 学びのためのきっかけを創りだす

421Lab. における活動は、すべて学生主体の課外活動です。そのようなプロジェクトに参加している学生は、学部・学群、学年横断型のチーム編成や社会人との協働により、新たな価値観に触れ、異なる意見にも耳を傾け、自らの役割を理解しながら活動を進めています。

また、プロジェクトを進めていく際には様々な困難に直面するため、感情的になってしまったり、モチベーションが低下してしまったりすることもあります。途中で辞めずに1年間活動をすることで、学生自身の成長へと繋がっています。

地域と連携しやすい環境や、学生が真摯に活動に向き合える環境を教職員一丸となって提供することで、地域と学生が共に成長できる社会づくりを積極的に進めています。

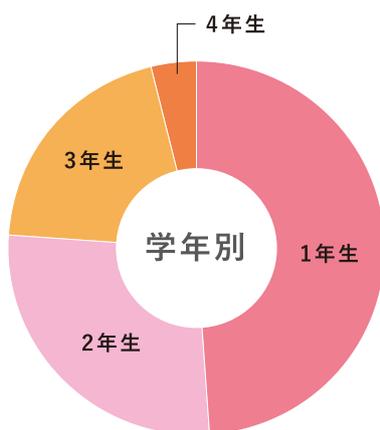
地域共生教育センター

基礎データ

登録学生数

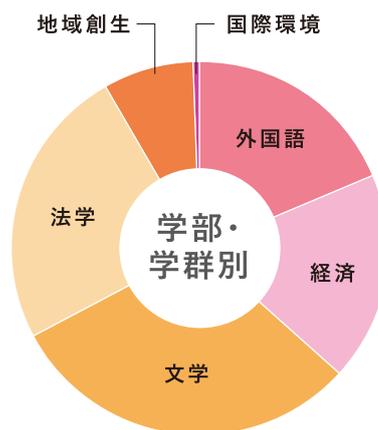
605 名 (2026年2月現在)

活動学生の学年別内訳



学 年				統 計
1	2	3	4	
296	165	122	22	605

活動学生の学部・学群別内訳



学部・学群						統 計
外国語	経済	文学	法学	地域創生	国際環境	
113	110	185	148	46	3	605



地域共生教育センター(通称:421Lab.)は、学生の力を必要とする地域と地域活動を行いたい学生を「繋ぐ」架け橋のような役割を担う団体です。また、学部学群の垣根を越えて学生が共に学び、高め合いながら経験を積める場でもあります。私たちは、実際にプロジェクトに参加し、「運営スタッフに出来ることは何か」を日々考え、より良い活動が出来るように、研修の企画や実施、地域の方に知っていただくための広報活動、サポート体制の整備等の活動を行っています。

活動の内容と成果

今年度は、421Lab.学生運営スタッフの所属人数がコロナ禍以降で最多となりました。人数が増え一つひとつの活動に十分な人数を充てたことで、新たな挑戦に踏み出すことができました。具体的には、これまでプロジェクト単位で取り組んでいた福岡ひびき信用金庫のフリーペーパー「Catccha」の取材・記事作成に、421Lab.を統括する学生運営スタッフとして初めて携わることができました。また、プロジェクトサポートの一環として大塚製菓株式会社と協働し、熱中症対策講座を実施することもできました。さらに、昨年度よりも多くのプロジェクトへ出向することができたことで、学生一人ひとりが各プロジェクトの理解を深め、より良いサポートを提供できる環境づくりに繋がりました。一方で「全体での状況把握の難しさ」や「人数増加による責任の分散」といった課題も浮き彫りになった1年でしたが、これまでの学びの蓄積が今年度の新たな成果に繋がったと感じています。

今後の展望や次年度の目標など

私たち421Lab.学生運営スタッフは、3つのグループに分かれ活動を行っているため、自らの所属グループ以外の学生が何を行っているか、何に悩んでいるかの把握が難しいことや、所属人数が増えたことで、グループを越えた交流があまり行われておらず、顔や名前を覚える機会が少ないことを課題だと感じています。そのため、来年度は、各グループの活動を把握できるような仕組みづくり・交流の機会を増やし、グループ間で相互に学び合える環境を目指したいと考えています。

リーダー	地域創生学群 地域創生学類 2年 國安 美菜
プロジェクト人数	50名
活動開始時期	2010年4月～
活動頻度	<ul style="list-style-type: none"> ●全体会(毎週水曜日昼休み) ●各グループ活動(週に1回)
連携・受入団体	北九州市内の行政機関、民間組織、団体等
主な活動場所	地域共生教育センター(421Lab.)
こんな人におすすめ	<ol style="list-style-type: none"> ①企画から運営まで携わりたい人 ②様々な経験を積んでみたい人 ③誰かの活動を支援したい人
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクト向け、学生運営スタッフ向けの研修の企画、運営 ●421Lab.公式SNSの運用 ●地元小学校の大学訪問の受入れ活動の企画、運営 ●SDGs修学旅行生受け入れ活動の企画、運営 ●新入生向けの説明会、相談会の企画、運営 ●オープンキャンパスでの相談会の企画、運営 ●北方市民センターで開催された夏祭りへの出店活動 ●地域活動発表会の企画、運営

活動する学生の声

私たちの活動では、社会に出た際に必要となる名刺交換やメール対応等のビジネスマナーを実践的に学ぶことができます。また、普段の学生生活ではなかなか経験出来ない取材活動や、人前で話す多くの機会等を通じて、学びの幅が広がったと感じています。また、たくさんの人と知り合うことができ、幅広い人脈を築くことができました。



各支援グループ

大学・地域 支援グループ

- リーダー／文学部 比較文化学科 2年 西村 美里
- 人数／19名
- 活動実績／●定例ミーティング ●大学祭への出店 ●小学校訪問・大学訪問(7月、12月)
- SDGs修学旅行の受け入れ(5月、6月) ●なんでも相談会(4月、11月)

大学・地域支援グループは、421Lab.の活動を広く知ってもらうための企画立案やイベント運営を行っています。学内では、入学式やオープンキャンパスでの相談会、大学祭への出店等を通して、新入生や受験生、地域の方々に活動紹介や大学生活の情報提供を実施しています。学外では、関西からの修学旅行生の受け入れや、地元の小学生向けの企画を行い、SDGsへの理解や大学教育の勉強について伝えています。幅広い世代の方々との交流を通して、柔軟な企画運営能力を養える点が特徴的です。



小学生を対象とした大学訪問の感想

大学訪問では、地元の小学生を対象に「大学は楽しい場所だ」というプラスのイメージを持ってもらい、将来の進路選択の幅を広げてもらうことを目的に実施しています。ミーティングを重ねながら、小学生が楽しめる企画を立案し、実施してきました。小学校訪問では、大学ならではの履修登録を模した時間割ゲーム、大学の概要説明、小学生の質問に答える座談会を行いました。また、実際に小学生に大学

へ来てもらい、講義の見学やキャンパスツアーを通して施設を紹介する機会も設けました。しかし、事前準備ではメンバーの人数も多いため、全員が揃うミーティングがなかなか行えず、打ち合わせや情報共有が不十分であるという課題も浮き彫りになりました。そこで、イベント後には、必ずフィードバックを行い、改善点を整理して次に活かすように努めています。当日までの準備は大変ですが、参加した小学生たちから、「楽しかった」などの声をいただくと、活動の意義を実感できます。

Lab. 支援グループ

- リーダー／地域創生学群 地域創生学類 2年 西村 陽菜
- 人数／14名
- 活動実績／●421Lab.公式noteにて【ラボログ】の更新 ●SNSを活用した広報 ●マナー講座の開催
- 北方まつり～ふれあいの夕べ～への出店 ●福岡ひびき信用金庫発行【Catccha】への取材協力
- 北九州市民活動サポートセンター発行【広報誌キラキラ】への寄稿

Lab.支援グループは、421Lab.全体の運営をサポートしており、広報誌やSNSなどを通じ、各プロジェクトの取り組みを発信する広報活動を中心に行っています。また、421Lab.公式noteにて掲載している【ラボログ】では、プロジェクトの活動報告や学生運営スタッフの日常を記事にしています。他にも、学生運営スタッフを対象とした講座も実施し、企業や団体など学外の方と関わる際に必要となるビジネスマナーについての講座を開催しました。



マナー講座の感想

昨年度に続き、今年度も学生運営スタッフを対象としたマナー講座を開催しました。内容は「言葉遣い」「名刺交換」「メールマナー」の3部構成とし、1年生が中心となって企画から実施までを担当しました。参加者体験型のワークを取り入れたり、音楽や効果音を用いたりするなど、改善を加えた点が特徴です。また、各回の終了後には全員で振り返りを行い、反省点を次の講座に反映させることで、より良い運営

を目指しました。全体的には、一方的に伝える形式ではなく、質問を投げかけながら進めることで全員が参加しやすい雰囲気をつくり、ゲーム性のあるワークによって理解を深められたことが良かった点として挙げられます。これらの取り組みを通じて、今後の活動に必要な基礎的なスキルを身につける土台づくりができたと思えました。来年度も新たな取り組みに積極的に挑戦し、より多角的に421Lab.の魅力を発信できる体制づくりを進めていきます。

プロジェクト 支援グループ

- リーダー／地域創生学群 地域創生学類 2年 下川 耀生
- 人数／17名
- 活動実績／●新入生勧誘のためのブース説明会の企画・運営 ●リーダー交流会の企画・運営(2回)
- 前期スタートアップ研修、後期スタートアップ研修の企画・運営
- ラボ運動会の企画・運営

プロジェクト支援グループでは、421Lab.に所属する学生がより良い環境で地域活動に取り組むことができるように研修会や交流会を開いてサポートしています。交流会の中で、熱中症対策講座をはじめ、プロジェクトに関わる学生のみならず、子どもたちや地域の方に向けた対応や意識改革を促すよう努めています。また、来年度は、学生運営スタッフによる出向の在り方にも目を向けて、プロジェクトと学生運営スタッフを繋げられるような活動をしていきたいと考えています。



各研修の感想

今年度の研修では、前期のリーダー交流会を開催する際に、大塚製薬株式会社と協働して、プロジェクトの運営を担っている各リーダーに対し「熱中症講座」を行いました。この講座を開催するにあたり事前の打ち合わせや、プロジェクト支援グループで一度講座を受けてみて、どのような内容を講演するかなどの議論を深めることができました。また、議論の中で、一度きりの研修ではなく、次年度以降も協働して、

より良い研修を企画していきたいとの評価をいただきました。この関わりから、後日開催したラボ運動会では、ボカリスエットをご提供いただきました。

また、後期のリーダー交流会では、各リーダーやリーダー候補の方々が楽しく意見交換ができるように、開催側の新たな取り組みとして軽食をとってもらいながら交流できるよう工夫したことで、当日は、参加していただいた方々の楽しく交流している姿を見る事ができました。

北九州の食が、被災地との架け橋に！



私たちは、東日本大震災をはじめとした被災地の復興支援と、震災の記憶を風化させないことを目的に活動しています。地域の祭りやイベントに参加し、岩手県釜石市の名物であるイカと、小倉発祥の焼うどんを組み合わせた「絆焼うどん」を販売しています。売上の一部は義援金として寄付し、残りは旅費などの活動資金に充てています。さらに、防災意識を高めるために防災教室も開催しています。食を通じて、人と地域、そして被災地をつなぐことを大切に活動しています。

活動の内容と成果

今年は8か所で「絆焼うどん」の出店をすることができました。昨年度は受け入れ先である「お好み焼きいしん」に大きく支えていただいていたのですが、今年度は新しいメンバーが多く加入したこともあり、プロジェクトのメンバーだけで出店活動が出来るまでに成長しました。「絆焼うどん」を多くのお客様の手に取っていただくことで、活動の認知度を高める機会となりました。また、出店のたびに反省会を開き、より良い運営を目指して改善を重ねるなど、日々良い出店活動となるよう意識しています。さらに、小学生や高校生を対象とした防災教室を実施し、災害が少ないとされる北九州だからこそ、防災意識を持つことの重要性を伝えてきました。子どもたちと一緒に防災について考える中で、自分自身の防災意識もより高まり、「大学生として周囲の命を守るために何ができるのか」を考えるようになりました。私たちの活動を通して、災害は誰にとっても身近なものであるということを、多くの人に知ってもらいたいと思っています。

今後の展望や次年度の目標など

今後も「絆焼うどん」の出店に力を入れていきたいと考えています。その売り上げを活用し、使用しているイカの産地である釜石市や、プロジェクト創設当時に深いご縁があった南三陸町を訪問したいと思っています。被災地から離れた北九州で風化防止を訴えるためには、私たち自身が現地の状況を自分の目で確かめ、防災意識向上活動に反映させることが重要だと考えています。さらに、現地で得た実感を北九州の方々に伝えていくことも、私たちの大切な役割であると感じています。

リーダー

- 文学部 比較文化学科
2年 久富 恵那
- 経済学部 経済学科 2年 麻生 怜
- 経済学部 経営情報学科
2年 石本 結依莉

プロジェクト人数 10名

活動開始時期 2011年4月～

活動頻度 隔週での定例ミーティング、
焼うどん出店、防災教室、被災地派遣

連携・受入団体 お好み焼きいしん

主な活動場所 学内、お好み焼きいしん、各地のイベント

こんな人におすすめ

- ①復興支援に興味がある人
- ②食に興味がある人
- ③地域との関わりを求めめる人

今年度の活動実績

- 水環境館講演会、鳥町防火フェスでのトークショーと能登の物産販売
- 学内での出店、北方夏祭り、まつりみなみ、TOTO、青嵐祭出店
- 能登半島地震の被災地ボランティア
- 藤ノ木小学校防災教室

活動する学生の声

北九州市は比較的災害が少ない地域ですが、災害が絶対に起こらないわけではありません。自分の身を守るためには、日頃からの備えが欠かせません。そこで私は、「絆焼うどん」の出店や防災教室の開催を通して、災害を身近な問題として意識してもらえよう、活動に取り組んでいます。



防犯防災意識向上のきっかけづくり



「北九州市を学生の視点から安全で安心なまちにしたい」。そんな思いを胸に、私たちは防犯と防災という2つの分野で、さまざまな活動に取り組んでいます。メンバー一人ひとりが、自分事として「まちの安全・安心」について深く考えています。私たちの目標は、防犯や防災の難しい部分を楽しく、わかりやすく伝えることです。プロジェクト活動を通じて、多くの方々が防犯・防災に関心を持ち、行動を起こせるよう取り組んでいます。

活動の内容と成果

今年度は、MATE'sにとって多くの「挑戦」と「飛躍」があった1年でした。最大のトピックは「(仮称)北九州市犯罪被害者等支援条例の検討会」への参画です。この大規模な活動に関わらせていただいた経験は、メンバーの意識改革と活動の質の向上につながりました。

また、防災分野においては「きっかけづくり」という原点に立ち返り、子どもたちや地域の方々を楽しみながら学べる企画を立案・実行しました。さらに、瞬花祭での自衛隊との協働イベントなど、新しい試みにも果敢に取り組みました。

これらの多岐にわたる取り組みを通じてMATE'sの活動領域は確実に広がり、これまでより多くの市民の皆様に関心を持っていただく「場」を提供できたと確信しています。

今後の展望や次年度の目標など

次年度の目標は、「活動の質の向上」です。

今年度の活動は新たな試みも多く、挑戦の数と同じく失敗や反省点も多くありました。今年度の活動の反省点を踏まえて、より良い企画作りや、組織づくりを行っていきます。基本方針である「防犯防災意識向上のきっかけづくり」のもと、地域住民・関係団体の方々に愛されるプロジェクトへと進化を続けていきます。

リーダー	法学部 政策科学科 2年 加来 美月		
プロジェクト人数	60名	活動開始時期	2010年5月～
活動頻度	週に1回(木)の定例MTG、月に3回程度のイベント		
連携・受入団体	NPO法人好きっちゃ北九州、 一般社団法人九州防災パートナーズ、 自衛隊福岡地方協力本部北九州出張所、 福岡県人づくり・県民生活部生活安全課、 北九州市総務市民局安全・安心推進課、 北九州市消防局予防部予防課 北九州市門司区役所総務企画課 福岡県警察本部生活安全部生活安全総務課、 福岡県小倉南警察署生活安全課・少年課・交通課、 一般社団法人海峽都市関門DMO 犯罪被害者・遺族の会「つながり」 NPO法人盗撮防犯ボランティアWc、 門司学園中高保護者会、株式会社J:COM		
主な活動場所	北九州市全域の市民センターや小学校など		
こんな人におすすめ	① 防犯・防災に興味関心がある人 ② 子どもや地域の方と関わってみたい人 ③ コミュニケーション能力を高めたい人		
今年度の活動実績	「防犯分野」 ● (仮称)北九州市犯罪被害者等支援条例の検討、 地域安全マップ講習 「防災分野」 ● あそぼうさいへの参加、防災イベントの企画		

活動する学生の声

防犯防災の知識や学生同士・地域間の関わりの大さを学べます!コミュニケーション能力に自信はありませんでしたが、活動に参加する中で、少しずつ子どもたちや地域の方々と打ち解けられるようになり、自身の成長を感じています。



「遊び」と「学び」から笑顔と思い出を！



子どもたちが楽しく遊びながら学ぶことができる企画をメンバー全員で考え、関わったすべての人が楽しめるイベントを提供することを目的としています。未就学児から小学校の中高学年まで、それぞれの年齢層に合わせて企画の内容を考え、より楽しめるよう、そして学びがあるように工夫しています。具体的には、大英産業株式会社が主催する出張子ども大工の参加や、プレイセンターハロハロへの参加、その他にも季節行事に合わせたイベントの開催をしています。

活動の内容と成果

[出張子ども大工]大英産業株式会社が企画している「出張子ども大工」に毎月参加しています。この企画では、処分される予定の建築端材を活用して、子どもたちの写真立てや椅子を製作する体験を行っています。参加する子どもたちの年齢に合わせて関わり、子どもたちの「できる」を積極的に見つけ、大工体験と環境問題への理解を深めるサポートをしています。

[夏祭りイベント]コラボラキャンパスネットワーク、英語で遊ぼうプロジェクトとのコラボ企画で夏祭りイベントを企画しました。具体的には「手作りうちわ」「ワニたたきゲーム」「水風船さかなつり」のブースを出展しました。未就学児の子どもたちを対象としているため、シンプルで分かりやすく、形にも思い出にも残るような企画を意識しました。

[鳥町消防イベント]北九州市消防局の方にお声掛けいただき、火災予防のイベントへ参加しました。子どもたちが楽しみながら自分自身で火災予防について考えられるような工夫をしました。

今後の展望や次年度の目標など

今まで参加・企画してきた子ども大工や季節のイベントへ更に力を入れ、準備段階での工夫はもちろん、現場での柔軟な対応など、より質を高め、メンバーにとっても子どもたちにとっても実りのあるような時間を作り出していきたいと考えています。メンバー全員が準備段階から楽しみながら試行錯誤し、子どもたちに「遊び」と「学び」、そして笑顔を届けられるような企画を考えていきます。

リーダー	●文学部 比較文化学科 2年 吉原 花音		
プロジェクト人数	24名	活動開始時期	2021年4月～
活動頻度	毎週月曜日昼休みに定例ミーティング、 月1・2回不定期でイベント参加		
連携・受入団体	大英産業株式会社、 コラボラキャンパスネットワーク等		
主な活動場所	学内、保育園や小学校、商業施設		
こんな人におすすめ	<ol style="list-style-type: none"> ①子どもと関わるのが好きな人 ②企画をするのが好きな人 ③学部・学科を越えた交友関係を築きたい人 		
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●大英産業(株)と連携して北九州市内各地で行われるこども大工に参加(月に1,2回程度) ●プレイセンターハロハロへの参加(週に1回) ●コラボラキャンパスネットワークと夏祭りイベントを共催(8月) ●沼市民センターでのペットボトル水族館の作成(8月) ●鳥町火災予防フェスタ「本気予防」への出店(11月) 		

活動する学生の声

出張子ども大工や季節のイベントなどに参加することで、子どもたちの発想や工夫に驚かされるなど、企画から実行まで楽しむことができます。また、子どもたちだけでなく保護者の方々や、企業の方々など様々な方と関われる貴重な経験ができました。



ちいきの子どもたちといっしょにあそんでいく？



私たちは月に2・3回貴船Y・Y児童クラブを訪問し、子どもたちと遊んだり宿題のサポートをしたりしながら、小学生への居場所づくりと学習支援を目的とした活動を展開しています。さらに、9月には「第51回小倉南区子どもまつり」、11月には「よみうりキッズフェスタ」へ参加し、知育ブースの企画・準備を行いました。このイベントを通じて、子どもたちに楽しい学びや遊びの機会を提供することができました。

活動の内容と成果

貴船Y・Y児童クラブは、小学校内だけでなく近隣の市民センターや公園などでも活動しているため、私たちも一緒に様々な場所で活動しています。市民センターでは、七夕の短冊を一緒に作ったり、子どもたちとチャンバラ大会を行ったりしました。また、学童内にて、自分たちで企画立案した謎解き宝探しを行い、学童の子ども達と楽しく交流することができました。さらに「第51回小倉南区子どもまつり」「よみうりキッズフェスタ」にも参加し、数字を活用した射的やボウリング、地理について学ぶパズルや身体の構造について知ってもらう輪投げなど、知育的要素を盛り込んだ店舗を運営しました。これまでの経験を活かしながら、楽しさと学びを両立させた取り組みを行いました。本イベントでは年齢や性格が異なる一人ひとりの子どもに合わせて教えることの難しさも感じ、言葉の選び方や教え方を工夫する必要があると感じました。この経験を通じて、私たち自身も多くの学びを得ることができたと捉えています。

今後の展望や次年度の目標など

今後の展望として、学童で定期的なイベント開催や子ども関連イベントに継続して参加していきたいと考えています。

また、知育の観点を大事に、子どもが楽しく学べる環境づくりに取り組んでいきたいです。子どもたちから学ぶことはたくさんあります。教職課程を取っている方、子どもと関わりたい方など、一緒に活動してみませんか？シフト制で月に1回土曜日の活動なので授業が忙しい方でも参加可能です！皆様のご参加をお待ちしています！

リーダー	法学部 政策科学科 2年 谷脇 宙
プロジェクト人数	13名
活動開始時期	2024年10月～
活動頻度	<ul style="list-style-type: none"> ●毎週火曜日昼休みに定例ミーティング ●月3回土曜日に学童で子どもと交流 ●1年に3回程度子ども関連イベントへの参加
連携・受入団体	貴船Y・Y児童クラブ
主な活動場所	貴船Y・Y児童クラブ
こんな人におすすめ	<ol style="list-style-type: none"> ①子どもと関わるのが好きな人 ②イベント企画をしたい人 ③一緒に楽しめる人
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●貴船Y・Y児童クラブでの活動（月3回） ●『第51回小倉南区子どもまつり』への参加（9月） ●『よみうりキッズフェスタ』への参加（11月）

活動する学生の声

貴船Y・Y児童クラブや子ども向けイベントに参加する中で、子どもとの関わり方を学び、コミュニケーション力を伸ばすことができましたと感じています。自分自身も友人が増え、多くの貴重な経験を積むことができました。



食を通じて地域社会と繋がろう



私たちは、地域社会との繋がり、食と健康について自発的に学習し、その成果を地域住民の方々や北九大生に伝えています。また、「食」という観点から地域に貢献し、幅広い年代の方々にアプローチできるように活動しています。今年も、大学祭の出店や特定非営利活動法人BeWithが開催している縁日食堂に参加し、食を通じて様々な方々と交流を行いました。

活動の内容と成果

【縁日食堂への参加】

今年度からの活動として、特定非営利活動法人BeWithが開催している縁日食堂への参加を始めました。学生と社会人が食事を通じて交流し、親睦を深めることが目的である縁日食堂に参加することで、様々な形で地域とつながる方や同世代の学生との繋がりや輪を広げることができました。また、参加している方々と会話する中で地域社会への理解や食についての新しい知識を得ることができました。

【大学祭の出店】

スマアというアメリカ発祥のお菓子を販売しました。メンバーで何を出店するかを話し合い、事前の試作会なども開催し、楽しく出店することが出来ました。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は縁日食堂への参加という新しい活動を開始し、メンバーの食に対する興味・関心が高くなったと考えています。学外の方々との交流は新しい知識や考え方を得ることができる良いチャンスであると強く思いました。一方で、メンバーの参加率の低下や十分な活動内容の提供が難しく、今年度いっぱいプロジェクトを終了することとなりました。

これまで関わっていただいた全ての皆様に感謝です、ありがとうございました。

リーダー	法学部 政策科学科 3年 西埜 壮
プロジェクト人数	16名
活動開始時期	2016年4月～
活動頻度	月1回休休みにミーティング
連携・受入団体	特定非営利活動法人BeWith
主な活動場所	北方市民センター 調理室
こんな人におすすめ	①料理が好きの人 ②食えることが好きな人 ③地域社会に何か貢献したい人
今年度の活動実績	●大学祭での出店 ●縁日食堂への参加

活動する学生の声

調理実習や大学祭出店等を通じてメンバー間の交流もあり、先輩・後輩関係なくみんなで楽しく料理を楽しんでいます。また、幅広い年代の人と関わることができるので自分の価値観も上げることができます。





子ども食堂応援プロジェクトでは、北九州市内の子ども食堂で子どもたちと一緒に遊んだり、勉強したりしています。みんなでご飯を食べることで孤食を防ぐとともに、子どもたちが楽しく安心して過ごすことのできる第三の居場所づくりを目標としています。現在は、3つの子ども食堂と連携して活動する他、北九州初である学生主体の子ども食堂である「まるっと食堂」を運営しており、多方面にわたり、成長することができるプロジェクトとなっています。

活動の内容と成果

今年度は、既存の3つの子ども食堂で活動するとともに、昨年度設立した学生主体の子ども食堂「まるっと食堂」を継続して運営しました。どの子ども食堂も学生スタッフが季節に合わせたイベントを企画したり、他のプロジェクトとコラボイベントを行ったりして子どもたちに楽しんでもらえるよう尽力しました。「まるっと食堂」では、421Lab.に所属している生理の貧困PJと昨年同様コラボイベントを開催し、多様性や生理についてお話していただきました。また、小倉北警察署とコラボし、交通安全について子どもたちと学ぶ機会を設けました。今年度から初の試みとして学生子ども食堂ネットワーク全国大会に参加し、「まるっと食堂」の活動報告を行うとともに全国の子ども食堂や子ども支援団体の学生とディスカッションを行うことで交流を深めました。他大学の学生や企業、そして地域の皆さまなどたくさんの方に支えられ、子どもたちの居場所づくりを行うことができたと感じています。

今後の展望や次年度の目標など

今後は、子どもたちがより一層楽しく、安心することのできる第三の居場所づくりを目指すとともに、ミーティングや活動を通して学生同士のつながりを深める機会をつくっていききたいです。ネガティブなイメージを持たれがちな子ども食堂ですが、貧困家庭のみならず誰もが気軽に来ることができる子ども食堂を目指します。また、様々な方と協力して地域交流の輪を広げ、あらゆる状況に置かれた子どもたちを支えるよう日々活動していききたいです。

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ●文学部 人間関係学科 2年 麻生 絵菓 ●文学部 人間関係学科 2年 船津 晴香 		
プロジェクト人数	58名	活動開始時期	2016年9月～
活動頻度	<ul style="list-style-type: none"> ●(日明)毎月第2・4週(木)17時～ ●(城野)毎月第3週(水)17時～ ●(若園)毎月第2週(木)16時～ ●(まるっと食堂)毎月第1週(水)17時～ 		
連携・受入団体	日明元気もりもりハウス、城野子ども食堂ハッピー、こあらのおうち子ども食堂、特定非営利活動法人BeWith		
主な活動場所	北九州市内の各市民センター(日明・城野・若園)、LEARNING SPACE CANDLE		
こんな人におすすめ	<ol style="list-style-type: none"> ①子どもが好きで、楽しく活動したい人! ②意欲をもって活動に参加できる人! ③主体的に子ども食堂を運営したい人! 		
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども食堂での定例活動 ●421Lab.の他プロジェクトや小倉北警察署とのコラボ企画を実施 ●年中行事に合わせた子ども食堂での各種イベント(ハロウィンやクリスマス等) ●学生子ども食堂ネットワーク全国大会への参加 ●SNSによる広報 		

活動する学生の声

子ども食堂では子どもたちと楽しく遊ぶことができ、私たち自身もたくさんのエネルギーをもらっていると感じています。また、子どもとの接し方や子ども目線で物事を考える力を身につけることができます。チームメンバーと協力してイベントなどの企画をやり遂げた際は、大きな達成感を得ることができました。



動物福祉について学び、命の大切さを伝える



動物福祉は、動物が精神的・肉体的に健康で、幸福であり、環境とも調和しているということです。私たち動物福祉プロジェクトは、様々な団体と交流、イベントのお手伝いなどを行っており、動物福祉についての現状や課題などを自ら学び、考えるようにしています。そして、SNSなどを使って「動物福祉」や私たちの活動をより多くの方に知ってもらえるように日々活動を行っています。

活動の内容と成果

今年度、動物福祉プロジェクトでは、SNS発信とペットボトルキャップ回収を中心に取り組みました。SNSでは、動物福祉に関する基礎知識や身近にできる配慮を、大学生にも分かりやすい形で発信しています。また、学内で集めたペットボトルキャップはNPO法人アニマルホームOhanaに寄付され、換金された資金は地域の動物の避妊・去勢支援に活用されています。小さな行動を積み重ねることで、動物福祉に貢献することを実感できる活動となりました。また、定期的子ども食堂に参加しています。毎回、子ども食堂に来る子どもたちに向けて企画を検討しており、今年度は、かるたや絵しりとり、動物クイズなどを行いました。これらは全て動物の知識や動物保護に関する情報を付け加えて作っています。年齢層の低い子どもたちに、遊びながら動物の知識をつけてもらうことができたとともに、子ども食堂を訪れた保護者の方々にも動物福祉について考えてもらえる機会になったと感じています。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は、例年に比べプロジェクト人数が増加したため、活動内容を大幅に変更しましたが、全体を通して安定して活動できたと思います。来年度は、外部の方々からお誘いいただいた活動だけでなく、外部団体と連携して何か一つのイベントや企画を作り上げたいと考えています。主体的なプロジェクト活動を実践し、より多くの人に動物福祉について伝えていきたいです。

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語学部 英米学科 2年 秋永 麻琴 ●文学部 比較文化学科 2年 藤 綾花 ●文学部 人間関係学科 2年 友岡 美実 		
プロジェクト人数	47名	活動開始時期	2015年11月～
活動頻度	ミーティング(月1回)、北九州市動物愛護センターへの訪問(月1回)、ペットボトルキャップ回収(月1回)、犬カフェかたのだ子ども食堂(月1回)		
連携・受入団体	NPO法人ドッグセラピージャパン、NPO法人アニマルホームOhana、NPO法人ALL OK		
主な活動場所	犬カフェかたのだ、学内		
こんな人におすすめ	<ul style="list-style-type: none"> ①動物福祉に興味のある人 ②動物と触れ合うことが好きな人 ③動物の知識や命の大切さを広めたい人 		
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●かたのだ子ども食堂(月1) ●ペットボトルキャップ回収 ●ワンワンフェスティバルへの参加 ●Wanステップ・プロジェクト 		

活動する学生の声

動物福祉プロジェクトの活動では、犬カフェかたのだで開催される子ども食堂への訪問を行いました。この活動を通して、特別なことより、動物と触れ合うささやかな体験が子どもたちにとって心地よい時間になることを知り、この活動の良さを改めて実感しました。活動で様々な人と関わることで新たな知見を得ることができ、自分自身も充実感が満たされました。





私たち「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトは、「北九州市を『文学』の街としてブランディングする」というコンセプトのもと、北九州市の魅力の再創出のために活動しています。北九州市にゆかりのある文豪や文学作品を多くの人に広める中で、北九州市をさらに盛り上げ、また、地域の人と「文学」を通して交流するなど、たくさんの方々のご協力のもと、日々活動しています。

活動の内容と成果

今年度は、例年実施している企画の内容をさらに改良し、様々な発展を遂げた1年となりました。特に、8月に北九州市立文学館と学童クラブみらいくで企画した「北九大学生による親子読書感想文講座」では、参加する小学生に読書を楽しんでいただけるよう、資料やワークシートの作成を行いました。北九州市立文学館での開催は大雨のため叶いませんでしたが、SNSで読書感想文のポイントをまとめた資料を発信したことで、より多くの方に周知することができました。また、学童クラブみらいくでは事後アンケートにおいて良い評価をいただくことができました。また、前期の最終週には学内に古本回収ボックスを設置し、回収した古本を学内古本市や「とほほん市」で販売しました。これにより、本を循環させ、必要とする学生たちに貢献することができたと感じています。

昨年度に引き続き、対面でのイベント開催に加えてSNSの運用も積極的に行いました。おすすめの本紹介は投稿形式を工夫し、誰もが見やすい形で発信することができました。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は、毎年恒例の企画をさらに充実させるための検討を行ってきました。来年度は、それらの案や開催後の反省を活かし、新たな活動を企画・実施したいと考えています。特に、高校生や大学生を対象とした活動を増やし、より一層「北九州市の『文学』の街としての魅力」を発信していきたいです。そして、これまでの成果を基盤としてさらなるステップアップを図り、多方面の人々に私たちの活動を知っていただけるよう引き続き努力していきたいと考えています。

リーダー	文学部 人間関係学科 2年 大石 ほのか
プロジェクト人数	28名
活動開始時期	2015年11月～
活動頻度	毎週金曜日昼休みの定例ミーティング、月に1回程度週末にイベントに参加
連携・受入団体	北九州市立文学館、小倉京町銀天街
主な活動場所	学内、北九州市立文学館、小倉京町銀天街
こんな人におすすめ	<ul style="list-style-type: none"> ①北九州市に根差した活動や地域の人の交流に興味がある人 ②イベントの企画・運営を通して自分のアイデアを形にしたい人 ③文学作品や読書、北九州市にゆかりのある文豪に関する活動をしたい人
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●北九州市立文学館にて「青空作文教室」開催 ●学童クラブみらいくにて「北九大学生による親子読書感想文講座」開催 ●小倉京町銀天街「とほほん市」への参加(年2回) ●学内古本回収、古本市(年2回) ●SNSにておすすめの本紹介の運用

- ①北九州市に根差した活動や地域の人の交流に興味がある人
- ②イベントの企画・運営を通して自分のアイデアを形にしたい人
- ③文学作品や読書、北九州市にゆかりのある文豪に関する活動をしたい人

- 北九州市立文学館にて「青空作文教室」開催
- 学童クラブみらいくにて「北九大学生による親子読書感想文講座」開催
- 小倉京町銀天街「とほほん市」への参加(年2回)
- 学内古本回収、古本市(年2回)
- SNSにておすすめの本紹介の運用

活動する学生の声

私は、大学生の視点で文学に関する活動を行いたいと思い、このプロジェクトに参加しました。今年は「とほほん市」で古本を商店街で販売する中で、本を通じて様々な人とお話しすることができ、いい経験になりました。また、自分の考えた企画を積極的に形にできるため、とてもやりがいを感じています！





私たちは「食」を通じた国際貢献を目的に活動しています。TFTとはTable For Twoの略称で「2人のための食卓」を意味し、先進国と開発途上国の食の不均衡を解消する活動の事です。主な活動内容は、北方キャンパスの学生食堂で開催される「TFTフェア」で、売り上げの一部を発展途上国の子どもたちの給食費として寄付するためのメニューを提供することです。そのほかにも学外のイベントに参加し自分たちが考案したメニューの販売を行い、同様に売り上げの一部を寄付しています。

活動の内容と成果

今年度も様々な取り組みを行いました。定例的な活動としてはTFTフェアを実施しました。また、フリーマーケットイベントのいざりフェスに出店し、売り上げの一部を寄付しました。TFTフェアでは今年度もオリジナルメニューの提供を行い、昨年度よりも多くの学生に購入してもらうことができました。また、SNSへおにぎりにまつわる投稿をすると写真1枚につき5食分の給食費が発展途上国の子どもたちへ寄付される取り組みである「おにぎりアクション」に参加し、Instagramにて広報をしました。それ以外にも、小規模多機能ホームきらめき上の原で行われた「きらフェス」へ参加しおにぎりを販売することで、寄付金を集めるだけでなく当該活動の認知度向上にも努めました。

また、SNSの投稿にも力を入れ、イベントのたびにSNSへ投稿を行い、SNSをフォローしてくれている方に対して、TFT活動を波及できるように取り組みました。以上の活動を通して、少しずつ支援の輪が広がっています。

今後の展望や次年度の目標など

今後の展望として、「活動の継続性」と「関わる人の裾野拡大」を重点に取り組みたいと考えています。今年度新しく行った企画で得た学びを活かし、メンバーだけでなく、多くの人達が協働できるようなイベントを増やすことで寄付の更なる拡大を目指します。また、新入生向けの説明やSNS発信を強化し、メンバーが主体的に動ける環境づくりを進めることで、活動全体の成長と社会への貢献を達成したいと考えています。

リーダー	法学部 法律学科 3年 横田 翔伍		
プロジェクト人数	22名	活動開始時期	2014年4月～
活動頻度	毎週月曜日または火曜日の昼休みに定例ミーティング、年に2回程度の食堂コラボ、年に4回程度の出店活動		
連携・受入団体	北九州市立大学生生活協同組合、株式会社プロデュース、特定非営利活動法人BeWith、Table For Two運営事務局		
主な活動場所	北九州市立大学北方キャンパス学生食堂		
こんな人におすすめ	<ol style="list-style-type: none"> ①「食」を通じて国際貢献をしたい人 ②「食」に関する企画を計画して、世界の食の不均衡について考えたい人 ③SNSやポスター作成、ポップ作成などの広報活動してみたい人 		
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●学生食堂で開催しているTFTフェアでのオリジナルメニューの提供 ●LEARNING SPACE CANDLEでのいざりフェスへの出店 ●LEARNING SPACE CANDLEでの会議へ出店 ●活動認知度向上のためのSNS広報 ●グループホームきらめき上の原での「きらフェス」への出店 		

活動する学生の声

私たちは様々な世代の方々にTFTの活動を広め、支援の輪を広げています。自分たちが取り組んだ活動が国際貢献に繋がることに非常に魅力を感じます。また、同級生だけでなく先輩や後輩との縦の繋がりが出来ることで、視野や知見が広がるとも楽しく活動ができています。



文化の魅力を分かち合い、共生の花を咲かせよう



私たちは外国の方との交流を通じ、「多文化共生社会」を実現することを目標として活動しています。主な活動は、北九州YMCA学院や北九州国際技術協力協会(KITA)の研究者との交流会の開催です。外国人の方々に日本の文化や言語の魅力を伝え、日本での生活をサポートすることができるよう日々取り組んでいます。実際に異文化を体験し、多文化共生についての理解を深められる機会を提供しています。

活動の内容と成果

今年度は昨年度に引き続き、定期的に外国人の方々と交流することができました。年に6回開催した北九州YMCA学院の留学生との交流会では、ミニゲームやスポーツフェスタ、一緒に料理を作る活動などを通して日本での生活を少しでも楽しんでもらえるよう企画を考え、留学生と真摯に向き合い多様な文化や価値観を理解し尊重することを意識して活動しました。留学生とは日本語で交流するため、留学生が日本語を話しやすい雰囲気を作り、分かりやすい日本語を使うことを心がけるようにしました。交流会の他にも、北九州YMCA学院で開催された「わいわい祭り」で体験型ミニゲームの出店をし、普段の交流会ではあまり関われないような年齢層の方とも交流することができました。これらの交流を通して、異文化理解を深め、言葉だけではないコミュニケーションの方法を学びました。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は定期的に交流会やイベントを開催することができました。今後は、プロジェクト内、プロジェクト間での交流を増やしていきたいと考えています。昨年度は、途中加入したメンバーは定期ミーティングでのみの紹介になってしまい、交流会の当日に初めて会う人も少なくありませんでした。また、他のプロジェクトと提携して行う活動も考えましたが実現できなかったため、次年度はチャレンジしていきたいと考えています。

リーダー	外国語学部 中国学科 1年 近藤 未柚
プロジェクト人数	37名
活動開始時期	2016年4月～
活動頻度	毎週木曜日の昼休みに 定例ミーティング、 年に6回程度の交流会
連携・受入団体	北九州YMCA学院、公益財団法人 北九州国際技術協力協会(KITA)、 株式会社Mahal.KitaQ
主な活動場所	学内、北九州YMCA学院、 北九州市内及び近隣地域
こんな人におすすめ	① 海外の友達が欲しい人 ② 異文化交流に興味がある人 ③ 日本を楽しめるイベントなどの 企画や運営に興味がある人
今年度の活動実績	● 北九州YMCA学院の留学生の 方々と月1回程度の交流会 ● JICA研究員の方々の受け入れ ● ウェールズの方々と交流会 ● 短期留学生の方々と交流会

活動する学生の声

外国人の方々と交流を通じて、日本について改めて知ることができる良い機会になりました。また、異文化だけでなく、外国人の方々が母国の文化について知らないことが多いのだと気付くきっかけになりました。活動を通じて異文化交流やコミュニケーションをとることの楽しさを実感しています。



アットホームな雰囲気で綺麗な街をめざす



私たちは、楽しくアットホームな雰囲気を大切にしながら、大学周辺のゴミ拾い活動に取り組んでいます。仮装して行うハロウィンやクリスマス清掃、お花見清掃など季節に合わせたイベントも実施しています。近年は、地域の高校生とも活動する機会が増え、多くの人と交流しながら取り組める場として広まりつつあります。継続的な活動により、「ポイ捨てはカッコ悪い」という意識を広めることを目指しています。

活動の内容と成果

今年度は、地域の美化を目的として定例清掃を継続するとともに、恒例となっている小倉商業高校の生徒と協働して清掃イベントも行いました。また、10月のハロウィン清掃では、メンバーが仮装をして活動を行い、例年以上に盛り上がる企画となりました。高校生との合同清掃には昨年度より多い約40人が参加し、「地域の環境問題に興味を持った」「普段関わることの少ない大学生との交流が楽しかった」といった声が寄せられました。昨年度の課題であった高校生と大学生の交流不足についても、活動中のコミュニケーションを意識的に取り入れたことで改善することができました。清掃を楽しみながら行うことで参加者のモチベーションが高まり、活動への関心も広がったと感じています。各イベントではメンバー全員が自分の役割をしっかりと果たし、スムーズな運営につながりました。今後も地域の方々と協力しながら、より参加しやすい活動を目指していきたいと考えています。

今後の展望や次年度の目標など

今年度の課題点として定例清掃で使用するルートが毎回同じになってしまい固定化していること、参加者同士の交流のために使用している名札がうまく活用できなかったことがあげられました。そのため来年度は新しい清掃ルートを作成することや学生運営メンバーを中心に参加者同士の交流をより積極的に行いたいと考えております。また、SNSなどを使用して宣伝活動を行い、まだ参加したことない人にも活動のことを広げていきたいと思っています。

リーダー	経済学部 経済学科 2年 田中 健
プロジェクト人数	27名
活動開始時期	2015年4月～
活動頻度	毎月第2、第4水曜日 17時30分から約1時間程度
連携・受入団体	NPO法人greenbird
主な活動場所	北九州市立大学北方市民センター
こんな人におすすめ	<ol style="list-style-type: none"> ① 気軽にボランティアを始めてみたい人 ② ゴミ拾いに少しでも関心のある人 ③ 人との交流が好きな人
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 北方周辺での定例清掃 ● 花見清掃 ● 小倉商業高校との清掃イベント ● SDGs修学旅行の受け入れ ● ハロウィン清掃

活動する学生の声

地域クリーンアッププロジェクトの活動では、自分たちの清掃活動で街が次第にきれいになっていくことを実感できるため、とても達成感があります。また、メンバーや地域の方と一緒に楽しく清掃しながら、環境について考えるきっかけにもなります。地域の美化に貢献できることにやりがいを感じ、毎回の活動が楽しみになっています。



清掃を通して、まちの魅力を向上・発信する！



私たちは「清掃を通して街の魅力を向上させること」を目的に日々活動しています。昨年度から始めた大学周辺の清掃や、地域の方と一緒に神嶽川の清掃に取り組み、ただ清掃活動をするだけでなく、街をきれいに保つ方法を模索しながら活動しています。また、今年度からは大学周辺のポイ捨てごみの集計を行い、ポイ捨て問題を「見える化」し、多くの人に知ってもらう活動にも取り組んでいます。

活動の内容と成果

今年度の主な活動と成果は、大学周辺清掃、神嶽川の清掃、火災予防イベント「本気予防」参加の3つです。大学周辺清掃は昨年度から始めたもので、メンバーも増えた今年度から本格的に取り組むことができました。月に1～3回の清掃日を設け、決まったルートを清掃しながら、ポイ捨てごみの調査も同時に行いました。ただごみを拾うだけでなく調査も行ったことで、どこにどのくらいごみが集中しているか知ることができました。神嶽川の清掃では、例年通り地域の方と協力しながら清掃活動を行うことができました。新しく入ったメンバーも川清掃に参加し、身近な河川で起きている環境問題に身をもって触れることができたと感じます。火災予防イベントでは、本プロジェクトの活動紹介、火災とポイ捨てに関するクイズを記載したポスターの展示を行いました。メンバー全員でポスターを制作し、イベント当日は様々な年齢層の方に活動を周知することができたと考えています。

今後の展望や次年度の目標など

来年度の目標は、本プロジェクトの活動を様々な人に知ってもらい、身近な環境問題について興味を持ってもらうことです。大学周辺の清掃活動を通して得た調査結果や、日々の定例活動をSNS等でより多く発信したいと考えています。また、メンバーの多さを活かして、定例活動の質や頻度を向上させたり、定例活動以外のイベントを企画、実行したりと、発展させながら、引き続き積極的に活動していきたいと考えています。

リーダー	地域創生学群 地域創生学類 3年 押川 佳蓮
プロジェクト人数	16名
活動開始時期	2020年4月～
活動頻度	週に1回の定例ミーティング、 月に1～3回の大学周辺清掃、 月に1回の神嶽川の清掃
連携・受入団体	株式会社ミクニ、河川愛護団体、 神嶽川を美しくする団体
主な活動場所	北九州市立大学北方キャンパス周辺、 神嶽川
こんな人に おすすめ	①身近で参加しやすい地域活動から 始めたい人 ②他学部の子、地域の方と 関わりたい人 ③自分たちで企画、実行してみたい人
今年度の 活動実績	●月に2～3回の大学周辺清掃 ●月に1回の神嶽川清掃 ●東武トップツアー修学旅行生 受け入れへの参加 ●秋の火災予防運動「本気予防」 へのブース出店

活動する学生の声

今年度は大学周辺を清掃しながら、ゴミの量や種類を記録する取り組みを始めました。日ごとの変化が見えたことで活動への理解が深まり、ただ掃除をするだけではない面白さを感じています。また、SNSにも力を入れ、新しいことに挑戦しながら活動の幅の広がりを感じました。





「小倉が8月9日の原爆投下第一目標地だった」という歴史的背景と、若者の平和意識の低下への危機感から、2011年に前身である「平和の駅運動プロジェクト」が発足しました。その思いを引き継ぎ、活動の幅を広げて再構築されたのがみらいピースプロジェクトです。小中学生への平和教育や研修会の実施、企画を通じた発信により、平和への関心を高め、未来の平和づくりに寄与する活動を継続しています。

活動の内容と成果

今年度は戦後80年という節目にあたり、例年の活動に加え、それに関連した取り組みを主軸として行いました。プロジェクトが生まれ変わった今年、新しい挑戦を模索した結果、千羽鶴プロジェクトを実施し、本学の学生や教職員、地域の皆様の協力により3,607羽もの折り鶴が集まりました。集めた鶴を広島へ届けるため、広島研修も実施しました。その中で、資料館の見学などを通じて学びを深め、今後の活動の礎となる時間となりました。こうした取り組みにより、活動の幅を広島へと広げることができたと感じています。また、例年通り、小学校での平和学習も行いました。児童にどのように平和を伝え、考えてもらうか苦心しましたが、ワークシートの内容からその思いが届いたことを実感しました。また、北九州平和資料室TICO PLACE主催の忠霊塔慰霊祭にも参加し、メンバーにとって今後の平和活動の糧となる貴重な経験となりました。1年の活動を通じ、未来の平和へ向けた確かな一歩を踏み出せたと感じています。

今後の展望や次年度の目標など

今後も今年度と同様に、多くの人へ平和を発信できる企画を継続していきたいと考えています。具体的には、InstagramやYouTubeなどのSNSを用いて情報発信を強化するとともに、オンライン・オフラインを問わず、セッション型イベントや展示企画など、多くの人に参加できる場づくりも行っています。身近な人に限らず、より多くの人々が平和に触れ、考える機会を創出し、未来の平和に向けた一歩を歩み続けていきたいと思っています。

リーダー	経済学部 経営情報学科 2年 岩崎 敏起		
プロジェクト人数	8名	活動開始時期	2011年4月～
活動頻度	週1回定例ミーティング、 月1回から2回程度学内外活動		
連携・受入団体	北九州市平和のまちミュージアム、 北九州平和資料室TICO PLACE、 北九州市ピースフィールドクラブ		
主な活動場所	学内、北九州市立葛原小学校、 北九州市立西小倉小学校、 北九州平和資料室TICO PLACE、広島市、 北九州市平和のまちミュージアム		
こんな人におすすめ	①幅広い年代や大学外の人と関わりたい人 ②自分の考えを企画にして形にし、 発信したい人 ③人に話せる経験や成長の機会が欲しい人		
今年度の活動実績	通年 ピースフィールドクラブへ参加 4月 劇団俳優座演劇ボランティア参加 5月～6月 SDGs修学旅行 6月 北九州平和資料室TICO PLACEイベント 忠霊塔 戦没者慰霊祭 参加 6月 北九州市立葛原小学校平和学習 7月 北九州市立西小倉小学校平和学習 6月～8月 千羽鶴プロジェクト実施 9月 広島研修実施 10月～11月 広島研修アウトプット動画、絵本作成 12月 北九州平和資料室TICO PLACE研修会実施		

活動する学生の声

活動に参加する前は「平和」に強い関心はありませんでしたが、広島、長崎の県外研修や平和学習を通じて、戦争の悲惨さを知り、日常の平和が当たり前ではないことを実感しました。今では活動にやりがいを感じ、楽しく取り組めるプロジェクトだと思っています。



楽しく遊んで英語をもっと身近な存在に！



このプロジェクトでは、主に未就学児から小学生を対象に、英語に楽しみながら触れてもらう機会づくりの提供を目的に活動しています。アルファベットや簡単な英単語を使ったゲームの企画を考えたり、体験型ブースの作成をしたりなど、イベントに応じた準備を行っています。また、コラボラキャンパスネットワークの方々や夏祭りを開催し、英語を通じて子どもたちの発達を支えられるように活動を続けています。

活動の内容と成果

今年度はプロジェクトメンバーの人数が増えたことから、新しい試みとして北九州YMCA学院の方々とのコラボイベントとして、週に1回子どもたちと英語に触れ合う機会を作るという定期的なイベントの実施ができました。そして、他のプロジェクトとコラボ企画を実施するなどし、普段の活動では得ることのできない刺激や新たな発見を得ることができました。

幼児向けや小学生を対象としたイベントなど、様々な子どもたちと接する機会の中で、「簡単にわかりやすく英語に触れることのできるゲーム」や「イベントの内容に沿ったブースの企画立案」など、運営における力を養えることができました。

今年の反省点としては、人数拡大によって情報共有などがうまくいかず、意思疎通が上手くいかなかったことです。これからは一人ひとりが主体的になって活動に取り組んでいきたいです。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は、プロジェクト人数も昨年度と比べて増加し、新たな企画立案やより幅広い活動を展開したいと目指していました。そのため、公益財団法人YMCA学院とのコラボイベントを取り入れ、単発的な活動に限らず定期的に活動できる場所の確保を目指しました。しかし、様々な課題も浮き彫りになったことも事実です。それらを踏まえて、来年度はハロウィンやクリスマス等の季節イベントを増やすなど、より充実した活動にしていきたいと考えています。既存の活動も引き続き力を入れていきます。

リーダー	文学部 比較文化学科 2年 西村 美里
プロジェクト人数	20名
活動開始時期	2021年4月～
活動頻度	毎週金曜日昼休み 定例ミーティング(約15分)
連携・受入団体	コラボラキャンパスネットワーク、 公益財団法人北九州YMCA学院 学童保育クラブ、読売西部アイエス
主な活動場所	学内、クレカ若松、 公益財団法人北九州YMCA学院
こんな人におすすめ	①子どもと関わるのが好き ②教育に関心がある人 ③英語に興味がある人
今年度の活動実績	●週に一回の定例ミーティング ●コラボラ夏祭り ●足原小学童イベント ●北九州YMCA学院との コラボイベント ●読売キッズフェスタへの 参加とブース出店

活動する学生の声

定期的なイベントに加え、新たな活動の場所を増やすことができたことで、たくさん子どもたちと交流する機会が増えたと考えています。子どもたちがどのように楽しんでくれるかを一番に考え、交流のたびに新たな視点に気づくことができました。



「もったいない」なら私たちにお任せください!



北九大もったいないプロジェクトでは、学内に潜む「もったいない」を見つけ出し、持続的に有効活用するための方法を考え実践する活動を行っています。食品ロスや節電、リサイクルなど、私たちにとって身近な話題を取り上げることで、学生の環境問題に対する意識の向上を目指しています。個々の意見が活動に反映されやすく、また、何事にも挑戦できる環境であるため、メンバー全員が主体性・責任感をもって課題解決に取り組んでいます。

活動の内容と成果

プロジェクト内では、昨年度から引き続き「教室・廊下の消灯」「放置傘の再利用」「弁当容器の回収」「コンポスト」の4つのグループに分かれ、活動に取り組みました。今年度は、具体的な活動実績を振り返る機会を設けたことで、メンバー全員がより主体的に活動へ参加できるようになりました。

また、学内の未利用スペースを活用し、コンポストで作る堆肥を使った畑づくりにも継続して取り組みました。その結果、野菜や果物を収穫することができました。

さらに、学内で伐採された木材を再利用する「北九wood」の長期的な取り組みも新たに始まり、現在、企業の方々と協力しながら構想段階の話し合いを進めています。

これらの活動や成果を学生に知ってもらうため、校内放送、ポスター、SNSなどを活用した広報活動も行いました。認知度向上を目指し、ポスターや看板、掲示物の作成などを通して、多くの学生に周知できるよう工夫しました。

今後の展望や次年度の目標など

まだまだ学内に潜んでいる「もったいない」を見つけ出し、なくしていくことで北九州市立大学をさらに持続可能な環境への負荷が少ない大学にしていきたいです。学内外問わずプロジェクトの存在とその活動を認知していただき、環境問題やエコな取り組みへの関心が高まるような活動を行っていきます。また、継続している活動の課題点をなくしていけるよう改良を重ねることで、来年度は学内だけの活動に留まらず地域と連携できるような取り組みを目指します。

リーダー	法学部 法律学科 2年 末吉 穂乃佳
プロジェクト人数	19名
活動開始時期	2022年4月～
活動頻度	週1回全体でのミーティング、継続活動、不定期で企画やイベント実施
連携・受入団体	北九州市立大学総務課、大英産業株式会社
主な活動場所	学内
こんな人におすすめ	<ol style="list-style-type: none"> ①学内の問題解決に携わりたい人 ②SDGsや環境問題に興味がある人 ③何か新しいことに挑戦したい人
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●教室、廊下の消灯、節電の呼びかけ ●消費電力量を学内のサイネージを利用して公表する ●子ども食堂応援プロジェクトとのコラボ企画 ●もったいない傘の管理、補充 ●定例ミーティング ●大英産業株式会社とのミーティング ●弁当容器回収 ●エコセンターへの研修 ●廃棄される弁当でコンポストを作り堆肥を育てる ●コンポストの堆肥を利用して畑を作る ●大学と協力し、不良品を回収した

活動する学生の声

今年度は、昨年度から継続していた活動をより具体的に振り返ることで課題が明確になり、内容をさらに充実させることができました。また、新たな企画にも挑戦することができました。企業の方々と協力しながら継続的に活動できたことも大きな成果です。活動を通じて、学内外を問わず多様な人々と関わる機会が多い点に、大きな魅力を感じています。





私たちは、主に学内のSDGs文化の醸成に取り組むプロジェクトです。SDGsの観点から学内の課題を探し、企業や学内関係者の方々にご協力していただきながら、学生が主体となって課題解決に取り組んでいます。また、学外でワークショップを開催したり、環境イベントに参加したりするなど、活動の幅を学外にも少しずつ広げています。現在、株式会社タカギ、KAMIKURUプロジェクト、大英産業株式会社と協働し、活動を行っています。

活動の内容と成果

今年度は、紙・プラスチック・電気の使用量削減を目的とした北方・ひびきの連携プロジェクトである「北九大エコのたね」を立ち上げ、株式会社タカギのご協力のもと、ひびきのキャンパスに浄水ウォーターサーバーを新たに設置しました。これにより、両キャンパス合同でペットボトルごみ削減に取り組んでいきます。また、紙の循環や環境負荷低減を目的として、KAMIKURUプロジェクトに参画し、大学内で回収した古紙を再生紙へとアップサイクルする活動を開始しました。古紙回収ボックスは、大英産業株式会社と協働して端材を活用したり、大学で廃棄予定だったOHPボックスを活用したりするなど、サステナブルを意識して製作しました。さらに、今年度は学外にも活動の幅を広げ、気候変動について考えるワークショップや、企業の方と協働して市民の方に環境問題やESDに関心をもていただくためにエコライフステージでブース出展を行いました。エコライフステージでは、2日間で2ブース合計約550人の方に来ていただき、活動を学外に広めるきっかけになりました。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は、定例活動に加えて、学内外で新しい活動を多く行うことができました。次年度は、今年度開始した活動を安定させ、さらにより良い活動にしていきます。SDGsやESDに関心を持つ学生や市民の輪を広げるため、ワークショップの開催や、ウォーターサーバー運用、古紙回収など学内のSDGs文化の醸成に加え、学外での活動にも力を入れていきたいと思っています。今後も引き続き、多様な人々とのつながりを大切にしながら、SDGsに取り組んでいきます！

リーダー	法学部 法律学科 2年 林 優里		
プロジェクト人数	17名	活動開始時期	2022年4月～
活動頻度	週に1回1時間程度		
連携・受入団体	株式会社タカギ、KAMIKURUプロジェクト(エプソン販売株式会社、NPO法人わくわく)、大英産業株式会社		
主な活動場所	学内		
こんな人におすすめ	<ul style="list-style-type: none"> ①SDGsに興味がある人 ②企業の方と協働して活動してみたい人 ③何か新しいことにチャレンジしてみたい人 		
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●ウォーターサーバーの設置、運用 ●「北九大エコのたね」の立ち上げ ●KAMIKURUプロジェクトへの参画 ●KITAQサステナカフェ ●学内外でワークショップの開催 ●北九州エコライフステージ2025にブース出展 ●北九州市立大学サステナビリティレポート2025の制作 		

活動する学生の声

SDGsという共通の目標に向かって、普段関わる機会の少ない企業や学内関係者の方々と意見を交わしながら、ともに課題解決に取り組んでいるため、人とのつながりが大きく広がりました。企画を進める中で、SNS広報や書類作成などにも挑戦し、新しい経験を通じて自分自身の成長に繋がりました。





生理を身近に、誰かのためになることを今始めよう



私たちのプロジェクトは、生理の貧困問題を身近なものとして感じてもらうための活動を行っています。まず、生理を取り巻く課題を把握し、その課題の解決に向けた活動内容を検討します。そして、生理やジェンダーを女性や当事者だけでなく、すべての人々に身近なものであると感じてもらうためのイベントを企画し実行します。また、生理やジェンダーに対するマイナスイメージを払拭することも目標の一つとしています。

活動の内容と成果

今年度はイベント参加のしやすさを重視した活動を行いました。「北九大生理の日」イベントではプロジェクトの認知度向上のため、短冊に願い事を書くという誰でも参加できる内容にして実施しました。加えて、イベントの近くを通っただけの方々にも私たちが認識してもらえるように、新たに名刺やのぼりを発注しました。用意した分の名刺と短冊はすべて配布することができたため、当プロジェクトの周知に貢献できたと思います。また、タンポンチャレンジャーは実施方法を見直し、クリスマスドライブ同様、設置型のタンポン配布にすることにより利用者がかなり増加し、287個配布することができました。体験型イベントである布ナプキンワークショップでは参加者は少なくなりましたが、参加者がいるということは関心を持っていただいた方が一定数いたという意味で、良い結果であったと思います。また、小学生に多様性について知ってもらうイベントは子ども食堂応援プロジェクトの活動場所をお借りし、小学生にもわかりやすく伝えることができるよう意識して企画しました。

今後の展望や次年度の目標など

今年度はより多くの方々に目を向けてもらえるように、イベントの参加のしやすさや分かりやすさに力を入れて取り組みました。しかし、外側に目を向けるあまり、内側であるメンバーへの活動の説明や、理解度の確認を十分に行うことができていませんでした。来年度はイベントを行う目的をメンバー間でしっかり共有し、イベント参加者にも解像度の高い「生理の貧困」や「ジェンダー」問題に関する理解を得られるようにしたいです。

リーダー

- 文学部 人間関係学科
3年 武本 ひより
- 文学部 人間関係学科
3年 吉本 優希

プロジェクト人数

12名

活動開始時期

2022年4月～

活動頻度

週に1回のミーティング、
1～2か月に1回程度のイベント

連携・受入団体

なし

主な活動場所

学内

こんな人におすすめ

- ①生理やジェンダーに興味がある人
- ②生理用品が当たり前に使える環境を作りたい人
- ③イベントの企画や運営を行ってみたい人

今年度の活動実績

- 北方キャンパス内で北九大生理の日イベント実施
- 校内トイレにてタンポンチャレンジャー（タンポン配布）実施
- 布ナプキンを手作りする布ナプキンワークショップの実施
- 小学生に多様性について知ってもらうイベント（子ども食堂応援プロジェクトとの合同イベント）実施
- クリスマスドライブ（生理用品の回収と配布）実施

活動する学生の声

イベントの実施によって学内で「生理の貧困」問題の周知や改善に影響を与えることができていると感じています。特に生理用品配布は、感謝や継続希望のお声が多いため、やりがいを感じることが出来ます。また、利用者が多いイベントの実施は達成感も大きいです。



まだよく知られていない門司港の魅力を探索しよう！



門司港の魅力はレトロ地区だけではなく、歴史的建造物、食文化、景観、港、人々など魅力がたくさんあります。本プロジェクトでは門司港及び門司地区のまだ知られていない魅力を探るため、フィールド活動を通して地域の文化的資源や見どころの情報を発信します。行政、事業者、ボランティアなどとの交流を通して、文化観光、まちづくり、地域経済、人口減少・高齢化など地域課題の解決に向けた政策を楽しく学びます。

活動の内容と成果

今年度は北九州市門司区を対象地域として設定し、活動を行いました。門司区役所から門司港地区の政策展開に関するレクチャーを受けたり、7月には実際に門司港地区、大里地区、和布刈地区へフィールド調査を行ったりして、門司区の現状や課題を分析しました。その後、各グループに分かれて門司港地区の地域資源を活かした新しい文化観光プログラムを検討しました。具体的には、門司港地区の課題として挙げられていたナイト観光プログラムの強化や、門司港地区周辺の魅力のあるスポットを巡ることができるサイクリングコースを考えたり、門司港地区の魅力の再発見をテーマに人や場所についての紹介リーフレットの作成を試みたりしています。その他にも私たちが実際に門司港地区や周辺地区を歩いて魅力を感じた場所を基にまち歩きコースを作成する活動も行っています。これらの活動を通して、学生視点から考えた門司港地区及び周辺地区の魅力を発信しています。

今後の展望や次年度の目標など

各グループのテーマ別のフィールド調査を継続したあと、成果物を作成したいと考えています。引き続きSNSでの情報発信を強化して、門司港地区や周辺地区の魅力及び本プロジェクトの活動内容をより多くの人々に知っていただくことを目指しています。次年度は、活動に参加するメンバーを増やして、門司港及び周辺地区の探索を深め、点在する魅力的なスポットをつなぐ文化観光プログラムを考案することが目標です。

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ● 法学部 政策科学科 3年 伊藤 瑠里 ● 法学部 政策科学科 3年 北野 日和子 		
プロジェクト人数	22名	活動開始時期	2023年5月～
活動頻度	月に2日2時間程度		
連携・受入団体	門司区役所他		
主な活動場所	北方キャンパス(図書館ホールほか)		
こんな人におすすめ	<ol style="list-style-type: none"> ① まち歩きや旅行が好きで、地域の魅力を発見するのが楽しい人 ② アイデアを出したり、チームで何かを作り上げたりするのが好きな人 ③ まちづくりや文化観光、まちの未来に興味がある人 		
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 門司区役所から門司港地区の政策展開に関するレクチャーを受講 ● 門司港・大里・和布刈地区へのフィールド調査を実施 ● 文化観光プログラム作りのための各関係団体へのヒアリング調査を実施 ● SNSを活用した情報発信 		

活動する学生の声

北九州文化観光プロジェクトでは、門司港及び周辺地区の文化観光の可能性を探るため、先生と一緒に活動を進めています。現地調査は大変さの中にも楽しさがあり、地域の魅力に触れられる貴重な体験です。自分のペースで参加できるので他の活動とも両立しやすいですよ！



北九大発！大豆ミートで広がる国際貢献



Thaksinaはタイ南部パッタラン地域の経済開発とタイのタクシン大学との交流を目的としたプロジェクトです。北方・ひびきの両キャンパスの学生が所属し、それぞれの強みを活かして、大豆ミートを使ったソーセージの商品開発やマーケティングに取り組んでいます。また、タクシン大学の学生の受け入れや訪問を通し、双方の地域の伝統や価値観への理解を深めています。言葉や国籍、宗教の違いを超え、和気あいあいと活動しています。

活動の内容と成果

私たちは「誰でもおいしく食べられる」をモットーに、大豆ミートソーセージの開発を進めています。タクシン大学にはムスリムの学生が多いため、今年度はソーセージに入れる豚脂の代替品の選定を目標に、何度も試作を重ねました。日本人にもタイ人にも受け入れられる味を目指し、改良を続けました。

また、株式会社ヤギシタへの訪問や11月の大学祭での出店、タクシン大学の学生の受け入れなどを通して試食会を実施し、いただいたフィードバックをもとにさらに改善を図りました。9月にはタクシン大学を訪問し、パッタランの観光地を訪れグリーンエコツーリズムについて学んだほか、タクシン大学で進められているはちみつ石けんの研究も見学しました。知識を得るだけでなく、文化交流の時間も設けることができました。互いの国のデザートを作り合ったり、現地のムスリムに伝わる伝統的な舞を披露してもらったりして、相互理解を深めました。

今後の展望や次年度の目標など

今年は4回の試作を行い、ソーセージに使用する豚脂の代替品を決定しました。

次年度は株式会社ヤギシタと連携し、私たちが開発した大豆ミートソーセージの商品化を目指します。これまでの学びを活かして、パッケージデザインや値段などを調整し、手に取ってもらえる商品づくりを進めます。また、タクシン大学との連携をさらに深めていくために、次年度も新しい取り組みに挑戦していきたいと考えています。

リーダー	外国語学部 中国学科 2年 濱邊 幸香		
プロジェクト人数	10名	活動開始時期	2024年2月～
活動頻度	毎週月曜日昼休み ミーティング、イベントに合わせて商品開発		
連携・受入団体	タクシン大学パッタランキャンパス、株式会社ヤギシタ		
主な活動場所	北九州市立大学北方キャンパス・ひびきのキャンパス		
こんな人におすすめ	<ul style="list-style-type: none"> ①商品開発やマーケティングなどに興味がある人 ②タイが好きの人 ③新しい発想をするのが好きな人 		
今年度の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●毎週月曜日の定例ミーティング ●大豆ミートソーセージの試作会 ●1週間のタクシン大学訪問(9月) ●大学祭出店(青嵐祭・響嵐祭)(11月) ●さくらサイエンスプログラムでのタクシン大学の学生・教員の受け入れ(2月) 		

活動する学生の声

●商品開発や学外の方との協働など、大学の講義では得られない経験ができます。

●タイが好きでこのプロジェクトに参加しました。タイの友だちができ、文化にも触れ、さらにタイのことが大好きになりました。



折り鶴 企画

【特集】
みらいピース
プロジェクト

2025年、日本は戦後80年を迎えました。戦争を知る世代が急速に減少する中で、平和を恒久的なものとするためには、日頃から一人ひとりが平和について関心を持ち、考える機会を持つことが重要であると考えます。

そこで、みらいピースPJでは、学内の教職員および学生が平和に対して関心を持ち、考えるきっかけをつくることを目的に「折り鶴企画」を立ち上げました。学内5か所に折り鶴作成スポットを設置し、平和への願いを折り紙に記して折り鶴を折っていただくよう案内を掲示したところ、約1か月間で合計3,607羽の折り鶴が集まりました。

集まった折り鶴は、みらいピースPJのメンバーが千羽鶴としてまとめ、広島へ奉納いたしました。ご協力いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

現在も、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエル・ガザ地区での戦闘など、世界各地で紛争が続いています。だからこそ、私たちは改めて平和の尊さを見つめ直し、その思いを次の世代へと継承していくことが求められています。

企画・構想期間 (2025年4月～6月)

一人ひとりに平和について関心を持ってもらうために、どのような企画内容が適しているかについて、メンバー間で検討を行いました。



折り鶴収集・ 千羽鶴作成期間 (2025年7月～8月)



千羽鶴奉納・学内に 平和の周知の掲示 (2025年11月～)

広島県の平和記念公園にある「原爆の子の像」へ、折り鶴の奉納を行いました。また、今回の企画を通じて学んだ内容を学内でも広く周知するため、掲示物を設置し、平和について考えるきっかけづくりを行いました。



活動の詳細な様子は、みらいピースPJ公式インスタグラム(@miraipeace_421)もご覧ください!!
https://www.instagram.com/miraipeace_421/?locale=ja_JP





STEP3 Check

2025 地域活動発表会

2月10日(火)に地域活動発表会を実施しました。地域活動発表会とは、421Lab.に所属しているPJが、1年間の活動内容や成果、今後の目標について発表し、コンテスト形式で表彰を行うものです。421Lab.学生運営スタッフが主体となり、地域活動発表会の企画・準備、当日の運営まで行いました。

昨年同様、ポスターセッション部門と発表部門の2部門制で実施しました。具団活動に参加している学生たちだけでなく、地域の皆様や受け入れ先の企業様にお越しいただき、大きな盛り上がりの中、無事に終了しました。

優れた成果を認められ、表彰されたPJは以下の通りです。

日時 2026年2月10日(火) 13:00~17:10

会場 北九州市立大学
A-101・多目的ホール
(参加人数 230人)



こども知育プロジェクト



防犯・防災プロジェクト(MATE's)



みらいピースプロジェクト





STEP4 Action

前期振り返り・ 後期スタートアップ研修

421Lab.では前期の活動が単なる出来事や実績で終わらせないように、研修を通じて振り返りを行い、後期の活動をより良いものにしていく機会を設けています。また、学生の成長やプロジェクト活動での反省を共有しあうことでプロジェクトを越えた学びにも繋がる工夫をしています。加えて、学生運営スタッフが企画から当日の進行までを担当することで、運営スタッフ自身のファシリテーション能力を養う機会ともしています。

01 前期振り返り・後期スタートアップ研修 (参加人数101人)

日時 2025年10月25日(土) 10:00~12:00

全プロジェクトを対象に「前期振り返り・後期スタートアップ研修」を開催しました。前期の振り返りとして、前期スタートアップ研修で設定したG-POPの目標(Goal)、今年度行うこと(Preparation)を再確認し、前期に実行したこと(On)を通して目標が達成されたかを各プロジェクトで振り返り(Post)を行いました。その後、振り返った内容をもとに後期の目標と活動内容を設定しました。また、各プロジェクトの振り返り、後期の目標や活動内容を研修内で発表することで互いのプロジェクト活動への理解を深めることができました。

今回の研修では、前期スタートアップ研修の事後アンケートで得た「G-POPの考え方が難しく理解できなかった」という反省をもとにアドバイスを交えながら進行しました。また、後期は各プロジェクトが後輩たちの世代に運営を引継ぐ時期でもあるため、研修の中で引継ぎの目的やメリットを提示することも心掛けました。それぞれのプロジェクトにとって活動の再スタートを切ることができました。

03 引継ぎについて

やってよかったこと	=	来年も続けてほしいこと
改善すべきこと	=	来年は変えたいこと
新たな活動案	=	来年に託したいこと
やってみたいこと	=	後輩の主体的な活動

03 後期活動の計画

- ・振り返りの習慣化
- ・柔軟なPREの見直し

定期的なMTGでの
簡単な振り返り

一度決めたからと
こだわりすぎないでいい



02 後期リーダー交流会 (参加人数39人)

日時

2025年12月3日(水)
18:00~19:30

後期が始まり、各プロジェクトでリーダーの引き継ぎが行われる時期にあたることを踏まえ、プロジェクト支援グループでは、スムーズな引き継ぎのためのサポート、新リーダーが抱えている不安の解消、新リーダー同士の交流を行うことを目的に「後期リーダー交流会」を企画しました。後期リーダー交流会では、各プロジェクトのリーダーとリーダー候補が集まり、引継ぎの説明やアドバイスと前期の活動を通して、リーダーとしての成功例や悩み、不安について話し合う場を設けました。プロジェクトの垣根を越えてリーダー同士、リーダー候補同士で交流を行うことで、不安感や緊張を解消する場となりました。また、たくさんのプロジェクトと交流することにより、新たなアイデアが生まれるなど、とても有意義な時間を提供することができました。





topics
トピックス
01

環境ESD演習 フィールドスタディ



01. スタディーツアーについて

今年度の副専攻「環境ESDプログラム」における特別科目「環境ESD演習」では、韓国釜山・済州島を訪れ、まちあるき文化(オルレ)や自然、食文化などについて調査を行いました。

20代の若者の運動への関心の低さ、身体活動の機会の減少といった背景を踏まえ、普段運動をあまりしない人々にウォーキングを魅力的かつ実践的な選択肢として提案する方法を模索しました。その一環として、ウォーキングの先進事例である韓国済州島のオルレに着目し、現地でのフィールド調査を実施することになりました。オルレに参加したことで、参加者が歩く目的や動機、歩行環境の整備状況、さらには観光や地域振興との連携について理解を深めることができ、ウォーキングを単なる身体活動としてではなく、文化的・社会的活動として位置づけている点が大きな学びとなりました。

02. スケジュール

本プログラムは事前学習・現地学習・事後学習の3段階で実施しました。

1. 事前学習

オルレおよび若者の健康に関する先行研究・文献調査を事前に実施した上で、宗像大島にて開催されているオルレに参加し理解を深めた。

2. 現地学習 2025年9月16日(火)～9月20日(土)

韓国済州島のオルレに参加し、現地の人々がオルレを取り組む目的、その理由について分析を行った。

3. 事後学習

環境ESD演習II授業内にて成果発表を行った。

03. 現地での活動内容

9月16日(火)

① 中心市街地の視察(済州島)

9月17日(水)

② 済州オルレの実施

9月18日(木)

③ 移動日

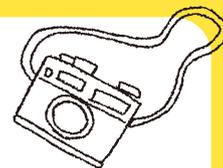
9月19日(金)

中心市街地の視察(釜山市)

9月20日(土)

中心市街地の視察(釜山)





04. 参加学生のコメント

● 外国語学部英米学科 3年 加峯希美さん

私たちは済州オルレの17番コース(約20km)を歩きました。私はこの演習を始めるまでオルレを知らなかったので、国外で観光地以外の場所を含めた長距離トレッキングをするということに対して新鮮な気持ちでした。最初は正確なスタート地点を確認しなかったために反対方向に歩いており、余計に歩いて時間を浪費する失敗をしてしまいました。しかし、他のオルレをしている人々と韓国語の翻訳機能を使いながら話していると、正しい方向を教えてくださいることができました。ここでオルレをしていた方々とコミュニケーションを取れたことは良い経験になったと思います。道中、歩く方向を示す旗と案内板が以前皆で歩いた宗像大島オルレよりも多くあることが印象に残っており、オルレを歩く人への整備がしっかり成されていると感じました。また、17番コースは山から見下ろす空港と離陸する飛行機や青い海など、きれいな景色を楽しめたことも印象に残っています。



この日は1日中歩いていたのでかなり脚の疲労を感じましたが、運動不足が気になる若い人からお年寄りまで、コースと距離を考え自分のペースで歩くことができるとても良い運動になると感じました。また、散歩や土地の形成、人々の暮らしを見ることが好きな人向けにコースを考えてみたいと思いました。

● 外国語学部英米学科 2年 翁長花音さん

今回、私たちは学生3人と仙波先生の引率のもとで、韓国の済州島と釜山に4泊5日で渡航しました。済州島ではオルレ17コースに挑戦しましたが、序盤は誤って16コースを歩いてしまい、スタート地点を探すのにとても苦労しました。そこで地域の人や他の参加者に助けをもらい、翻訳アプリを使いながら交流できたことは印象深い経験となりました。歩行中はイホテウビーチでのサンセットや馬の灯台など、観光資源として工夫された景観を多々目にすることができました。終盤は直線道路が続く、体力的にも精神的にも厳しく完走はできなかったものの、オルレが年齢、性別に関係なく国境を越えて人気を集める理由を体感できました。その後訪れた釜山では、高層ビルが立ち並び「韓国の大阪」と呼ばれるにふさわしいほどの活気を五感で感じるすることができました。天川文化村を訪れ、さらに海鮮料理を味わいながら都市部らしい人の多さや若者向けの店舗を多く経験できました。今回の滞在を通じ、済州の自然と釜山の都市文化という全く異なる魅力を体験でき、日本との共通点や違いを学ぶと同時に、観光と地域社会の関わりについて改めて考える良い機会となりました。



● 地域創生学群地域創生学類 2年 弓場琉夏さん

フィールドスタディとして、韓国・済州島の「済州オルレ17コース」を歩く貴重な経験をした。自然環境の豊かさや地域の文化、現地の人々の温かさに触れることができ、歩くことで見えてくる景色や空気、音など、五感で感じる体験は、机上の学びでは得られないものもあった。

コースを歩く途中、地域の方々や同じオルレを楽しむ方々と交流する場面も多くあった。多言語で挨拶を交わす中で、言葉が完全に通じなくてもつながることができ、地域の人が観光客を温かく迎え入れてくれる雰囲気から、オルレが単なる観光ルートではなく、人と人を結ぶ「交流の道」としても大切にされていることが分かった。

距離が長く、きつい場面もあったが、道の途中にあるカンセ(応援の看板)やフォトスポット、文化的な建物などを見るたびに、「ここまで歩いたのだ」という実感がわき、達成感が得られた。オルレは、単にゴールすることだけでなく、歩く過程そのものであると感じた。

フィールドワーク後は「オルレの魅力をどのように大学生に伝えていくか」について話し合い、大学付近でのお散歩コース作成やカンセのような看板・フォトスポットを大学生と一緒に作成・設置するなど、現実的で前向きなアイデアが多く出すことができ、とても有意義な時間だった。

このような貴重な体験ができたのは、メンバーや先生方、現地の方々のおかげだと感じている。感謝の気持ちを忘れず、これからの学びや行動につなげていきたい。





topics
トピックス
02

西南女学院大学 学生活動グループ 『STEP UP』との交流会

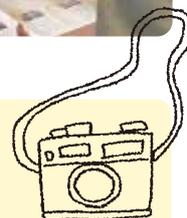


2025年9月17日(水)に、西南女学院大学の学生団体『STEP UP』の皆さんと交流会を実施しました。421Lab.とSTEP UPからはそれぞれ教員2名、学生4名が参加し、お互いの団体の活動内容に対する理解を深めることができました。普段は他大学の学生と交流する機会がないため、他大学の学生活動団体と交流することで、課題に対するアプローチを得たり、活動に対しての新たな視点を得たりと、充実した時間を過ごすことが出来ました。



日時 2025年9月17日(水) 13:00~

会場 北九州市立大学 地域共生教育センター



参加学生のコメント

● 地域創生学群 地域創生学類
1年 田尻 あやめさん

今回の交流会を通して、北九州市立大学「421Lab.」と西南女学院大学「STEP UP」の異なる点が見えてきました。STEP UPのみなさんは非常に学生主体で動かれているなと感じました。企画書も一から綿密に作成されており、学生主体の賜物であると感動しました。みなさん意欲に溢れており私たちも良い刺激を受けました。次回の交流会も楽しみにしております。

● 経済学部 1年 廣渡 遥さん

西南女学院大学「STEP UP」さんの活動内容は、試験期間中に自習室にて勉強会を開催、キッチンカーの日を盛り上げるためにレモネードスタンドの開催などがあり、その売り上げと募金をNPO法人に寄付しているということでした。このような活動も学生主体で実施しているということで、尊敬の念を感じています。学生や地域の方々への貢献に力を入れている点は私たち421Lab.の活動と近いものを感じました。今後はコラボ企画を実施するなど引き続き交流の機会を得られればと思います。

topics
トピックス
03

城野小学校 大学訪問



例年、421Lab.学生運営スタッフ(大学・地域支援グループ)が企画している小学校大学訪問は、地域の小学校に通っている子どもたちに“大学”を知ってもらうため、大学で学べる内容や、大学生のライフスタイルをキャリア教育の一環として実施しています。2025年7月7日(月)には、大学生が城野小学校を訪問し、北九州市立大学の説明や、大学訪問の際に見学するスポットを紹介しました。また、2025年7月9日(水)には、子どもたちに大学の授業や様々な施設を見学してもらいながら、適宜クイズや説明を挟み、大学への興味関心が高まるような時間を作っていました。

小学校訪問

2025年7月7日(月)
9:00~10:30

- 9:00 挨拶、大学生の自己紹介
- 9:05 北九州市立大学、421Lab.の紹介
- 9:30 時間割ゲーム
- 10:00 質問タイム

参加学生のコメント

● 外国語学部 中国語学科 1年 三園巧実さん

私は実際に421Lab.の一員として、小学生の大学訪問に関わらせていただきました。小学生たちは本当に元気で大学生の私たちも元気をもらいました。小学生たちには大学内、食堂、体育館、校舎を巡回してもらいました。食堂の様々な美味しそうなメニューに子供たちが興奮していて嬉しかったです。実際に授業中の風景も見てもらいました。小学校とは全く違う雰囲気と内容に刺激をもらったと思います。今回の大学訪問を通して、小学生にとってはまだ先のことですが、大学について少し詳しく、少し興味を持ってもらえたと思います。

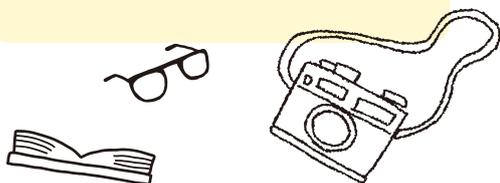
大学訪問

2025年7月9日(水)
13:00~14:30

- 13:00 挨拶、各グループに分かれて自己紹介
- 13:05 活動内容の説明、注意事項のアナウンス
- 13:10 各グループに分かれてキャンパスツアー
- 14:15 集合、振り返りと写真撮影
- 14:30 お見送り

● 地域創生学群 地域創生学類 1年 小金丸晃さん

今回の大学訪問を通して、説明する相手の目線に立って説明文を考えることの大切さを学びました。例えば、「1限は9時からで〇〇先生の授業を受けてるよ」と説明した後に、「〇〇先生の授業受けてるってことはその人が担任なんですか?」や「朝の会は何時から始まりますか?」のような小学生らしい質問が飛んできました。自分の説明も小学生からしたら難しかったようで、ピンときてない様子の子もいました。その時に、ただ大学の概要を話せばいいわけではなく、説明を聞いてくれる対象に目線を合わせた説明をすることが大事だと感じました。説明は上手くいきませんでした。参加してくれた小学生の子たちが楽しそうに帰っていく様子がすごく印象に残りました。今回の大学訪問で子どもたちに大学進学を身近に感じてもらえたら嬉しいです。



Leader's Voice

先輩インタビュー番外編

01 | 「平和継承」 次の代を育て、託していくために

経済学部 経営情報学科 2年 岩崎 敏起さん

学業以外にも色々な経験ができると聞いていたので、進学後に421Lab.を訪ねました。その時に目に留まったのが「平和」というキーワードで特にこれといった決め手があったわけではありません。むしろ活動をしていく中で、その意義や魅力について気づかされました。小倉の街が原子爆弾の第一投下目標地であったという歴史的背景や、本学が旧日本陸軍の跡地に建てられているという事実など、北九州が戦争と深い縁を持つ地であることを知り、この地に学ぶものとして大きな縁を感じ、この地で平和活動ができるのは大きな成長のチャンスであると思いました。一方で、私の学年はメンバーが自分ひとりだけしかおらず、プロジェクトの存続も危ぶまれていました。そうした中で、おのずと自分がリーダーを引き受けることとなり、後輩たち6人を大切に育てていきたいと思って活動をしています。試行錯誤の連続ですが、一人ひとりに作業をふることで、主体性をもって参加できるように工夫しています。また、あえて自分は全体把握に徹して、率先して動かないようにするといった場合もあります。平和を語り継ぐことは、後世を育てることに他ならないので、今後も後輩たちとプロジェクトを盛り上げるべく、新しいことにもたくさんチャレンジし、未来の平和のために活動に励みたいと思います。



みらいピース
プロジェクト

02 | 「勇往邁進」 自分の夢に向かってできることを全力で

法学部 政策科学科 2年 谷脇 宙さん

入学以前から将来は学校の先生になりたいと考えていました。加えて、もともと社会人チームでスポーツをやっており、そこに本学の先生が所属しておられ、「色々考えるより、まずはやってみたらいいよ」と後押しをいただき、1年生後期から小学校現場で活動できるプロジェクトに入りました。しかしながら、いざ参加をしてみると、前年度までの小学校での活動は終了して、新たに大学近郊の放課後児童クラブでの活動に切り替わるとのことでした。初めての場所で一からの活動となり不安もありましたが、それ以上にやりがいを感じました。また、プロジェクトのメンバーが少なく、同級生も1人しかいなかったため、1年生の冬にはリーダーを引き受けることになりました。引き受けるからには、メンバーが誰一人辞めることなく楽しみながら活動できることを心がけています。また、個別の面談を行ったり、自己紹介シートを作ったり工夫を凝らしています。こうした取組が功を奏して、このプロジェクトはメンバーみんなが仲良しです！このプロジェクトでの全ての経験が先生になった時に必ず生きてくると信じています。



こども知育
プロジェクト

03 | 「積水成淵」 楽しみながらコツコツと

経済学部 経営情報学科 3年 長岡 凜さん

大学入学後に何かやってみたいと考えていた際に、大学側のサポートも受けながら活動ができることに安心を感じ421Lab.を訪ねました。そこで、「子ども」と「工作」といったキーワードに惹かれてこのプロジェクトを選びました。企業と一緒に工作教室を開いたり、市民センターや消防局が主催するイベントで子ども向けの遊びを提供したりなど多種多様な活動を行ってきました。これまでのイベントで作成してきた作品は数え切れません。毎回、工作好きのメンバーたちとアイデア出しから作成まで黙々と作業をしている時間は特別でした。その中でも特に印象に残っているのは牛乳パックを用いた万華鏡です。出来上がった万華鏡を覗いて子ども達が嬉しそうに笑っている姿が印象的でした。

リーダーを引き受けるかどうかは正直1ヶ月程度悩みました。同級生が活動を辞めていく中で誰かが引き継がなければならないと思い、引き受けることにしました。メンバー一人ひとりに指示を出したり、日程調整が難しかったりと苦労したことは多かったですが、今となってはやって良かったと思います。後輩たちへの引継ぎの時期を迎え、どうなるのか心配もありましたが、自分たちで話し合って次期リーダーが決まりました。

自身の代から次の代へバトンを渡すことができ安心しました。



わくわくキッズ
プロジェクト

04 | 「試行錯誤」 新規プロジェクトならではの悩み

外国語学部 中国学科 2年 濱邊 幸香さん

2024年に新しく立ち上がったプロジェクトでタイのタクシン大学の先生や学生たちと協同して大豆ミートソーセージや蜂蜜石鹸づくり等の商品開発を通じて、パッタ룬地域の経済発展に向けた活動をしています。内容だけ聞くと煌びやかで意義深い活動ですが、新規プロジェクトだからこその悩みが多くあります。組織体制が十分に確立されているわけではなく、何となく前年までの流れを知っていたことと、たまたまその時に動ける立場にあったことが理由で名ばかりのリーダーを引き受けました。渡航するだけでも、旅券の手配や宿泊先の確保、保険の手続きなど後輩や同級生に伝えることも一苦労でした。また、これまでミーティングの記録を残すこともやってこなかったのが、十分な引継ぎ資料もありません。新しいプロジェクトだからこそ、その辺りのベースをどう築いていくのが問われているように思います。今夏のタイへの渡航を経て、メンバー同士の距離が近づきました。学年や学部を越えて全体で話せる雰囲気の今だからこそ、次の代にしっかりと引継いでいきたいと思っています。



国際開発
プロジェクト
(Takushina
プロジェクト)

REGION × STUDENTS

地域×学生を掛け合わせたら何が生まれるか。今回は、防犯・防災プロジェクト(MATE's)の活動に、日々協力していただいている小倉南警察署の三角さんに、防犯・防災プロジェクトの活動に対する想いや学生へのアドバイス等をお話して頂きました。

Interviewer

古川 栞菜

地域創生学群 地域創生学類 1年

Interviewee

三角 肇さん

小倉南警察署 生活安全課



同席者・執筆者

齊藤 妃那

地域創生学群 地域創生学類 1年

同席者・執筆者

廣渡 遥

経済学部 経済学科 1年

同席者

久富 恵那

文学部 比較文化学科 2年

「防犯・防災プロジェクト(MATE's)」と関わるようになった経緯を教えてください。

このプロジェクトに関わるようになった詳しい経緯については、警察署内に当時の資料が残っておらず、私自身も生活安全課に配属されてからまだ1年余りのため、当初の状況を把握していないのが現状です。警察署では人事異動も多く、昔の経緯が分からなくなってしまうこともあります。現在分かっていることとしては、平成27年頃から警察署協議会に防犯・防災プロジェクト(MATE's)の方が委員として参加していたという点です。警察署協議会は、自治会関係者や地域の有識者などが警察活動に対して意見を述べる場で、その中で生活安全課と関わりがあったと聞いています。

「防犯・防災プロジェクト(MATE's)」に関わる前と後で変わったことはありますか？

いつから関わっているのかも、実ははっきりとは分かっていないため、関わる前と後で何が変わったかというのを明確に言うのは難しい部分もあります。ただ、防犯ボランティアの活動は、町内会などを中心とした高齢の方が担うことが多いのが現状です。その中で、大学生や高校生の皆さんと一緒に活動するようになったことで、若い世代と関わりながら防犯活動を行えるようになりました。実際に、各種キャンペーンやイベントの際には、防犯・防災プロジェクト(MATE's)の大学生と警察職員と一緒にチラシ配りなどを行っており、日常的に協力しながら活動しています。

対談企業 小倉南警察署

対談日 2025年12月10日(水)

時間 1時間

場所 北九州市立大学 北方キャンパス



プロジェクトについてどのように感じていますか？

Q3

地域の安全を守る上で、警察だけではどうしても限界があります。日常の中で起きる小さな異変や、子どもたちの通学時の様子など、地域全体に目を行き届かせるには、多くの人の協力が欠かせません。その中で、大学生の皆さんが地域に関わり、子どもたちに自然と目を向けてくださることは、防犯の面で非常に大きな力になっています。

一人ひとりが「見て見ぬふりをしない」という意識を持つことで、地域の中に“気づく人”が増えます。異変に気づいた際に通報していただければ、警察が状況を認知するまでの時間が短くなり、現場への到着も早まります。

早期の通報は、警察の迅速な対応につながり、結果として犯罪の未然防止にもつながります。

大学生の皆さんが地域の一員として活動に参加して下さることで、地域の“目”が広がり、防犯活動の質が高まっていくことを実感しています。若い世代が地域に関心を持ち、行動してくれることは、地域全体の意識改革にもつながると感じています。



大学生と接することで得られる気づきや学びはありますか？

Q4

大学生の皆さんと関わることは、私たち警察にとっても大きな刺激になっています。若い世代と接することで、現場の雰囲気が明るくなり、自分自身もフレッシュな気持ちになれると感じています。大学生の皆さんの素直さや前向きな姿勢は、日々の業務の中で忘れがちな視点を思い出させてくれます。

特に印象的だったのは、詐欺防止に関する資料作成をお願いした際のことです。こちらが最低限の内容を伝えただけでもかかわらず、大学生の皆さんはデザインや表現に工夫を凝らし、視覚的にも分かりやすい資料を作成してくださいました。完成した資料はSNSにも掲載され、警察にはない発想力や柔軟な視点に驚かされました。

こうした取り組みを通じて、大学生の皆さんの感性やアイデアが、防犯啓発に新しい可能性をもたらしてくれていると感じています。大学生の皆さんとの協働は、地域の安全づくりにおいて欠かせない存在であり、私たちにとっても学びの多い貴重な機会になっています。

今後、大学生と取り組みたいことや挑戦したいことはありますか？

Q5

今後も、防犯キャンペーンや啓発活動については、大学生の皆さんと連携しながら継続して取り組んでいきたいと考えています。警察だけでは地域全体に目を行き届かせることには限界があり、大学生の皆さんの協力は非常に心強いです。

これまでは、警察側が企画した活動に大学生が参加するという形が中心でしたが、今後は、大学生の皆さんからの提案を生かした取り組みにも挑戦していきたいと考えています。若い世代ならではの視点や発想が、防犯活動をより身近で分かりやすいものにしてくれると期待しています。

具体的には、毎年開催している「地域安全・暴力追放運動小倉南区民大会」での啓発活動が挙げられます。この大会では、詐欺被害防止をテーマに警察官が寸劇を行いました。今後は大学生にも演者として参加してもらい、より多くの人に関心を持ってもらえる形で実施できればと考えています。

近年は、偽の警察官を名乗る詐欺電話や、SNSを利用した詐欺被害が増加しています。警察を装った電話や、LINEへ誘導する手口、さらには検察官や弁護士を名乗って不安をあおるケースも多く見られます。こうした巧妙な手口について、大学生の視点で注意喚起を行うことは、同世代や地域住民への効果的な発信につながると思います。今後も、地域の防犯力向上に向けて、大学生さんとともに新しい形の啓発活動に取り組んでいきたいと考えています。

大学生へメッセージやアドバイス

Q6

大学生の皆さんには、大学生活という限られた時間を大切にしてほしいと思います。大学は、社会に出る前に多くのことを学び、さまざまな経験ができる貴重な時間です。授業での学びだけでなく、人との出会いや活動への参加など、すべてが将来につながる経験になります。

大学生のうちに、興味を持ったことや「やってみたい」と感じたことには、積極的に挑戦してほしいと考えています。何かに関わることで新しい視点が生まれ、自分自身の考え方や選択肢を広げることができます。殻に閉じこもらず、多くの人の話を聞き、さまざまな経験を重ねてほしいと思います。

また、防犯の面では、日常の基本的な行動が自分の身を守ることにつながります。鍵を必ずかける、自転車は二重ロックをする、周囲の状況に注意を払うなど、当たり前のことを徹底することが重要です。特に、警察官や検察官を名乗る電話や、LINEなどのSNSに誘導する連絡には十分注意してください。不安をあおる連絡があった場合は、一人で判断せず、必ず周囲や警察に相談してほしいと思います。

大学生活を安全に、そして後悔のないものにするためにも、学びと経験の両方を大切にしながら、充実した時間を過ごしてほしいと考えています。

「地域につながる 自分をひろげる」

421Lab. 概要

2010年4月に北九州市立大学に誕生した『421Lab. (地域共生教育センター)』。

私たちの取組みの中心は「地域や学生が主役となる活動」です。地域の皆さんとの対話を繰り返し学生の活動の細やかなサポートを通して、地域貢献と人材教育の一翼を担っていきます。このような活動に取り組むことで、学生が地域につながり、自分をひろげることができます。今までになかった地域と大学の新しい関係が、ここからはじまっています。

421Lab. にはセンターの運営を支えている「学生運営ス

タッフ」がいます。ラボの運営を「学生の目線」からサポートすることで、学生が気軽に関わりやすい雰囲気を作っています。また、「地域活動に参加したい」、「何かやってみたい」という学生の相談に応えるため、学生運営スタッフ自身もプロジェクトに関わり、地域の課題や学生の役割等を説明できるように取り組んでいます。

その他にも、プロジェクト参加への第一歩となる「地域活動説明会」の企画・運営、イベントでの出展PRなどを行い、地域と学生とのつなぎ役として日々活動しています。



年月日	内容
2020.1.16	『食』から学ぼうプロジェクト 北九州市健康づくり活動表彰 市長賞(地域団体部門)受賞
2020.3.10	『食』から学ぼうプロジェクト 農林水産省食育活動表彰 ボランティア部門(大学等)消費・安全局長賞
2020.7.5	防犯・防災プロジェクトMATE,s 北九州市青少年ボランティア表彰(優秀賞) 北九州市子ども家庭局青少年課より
2020.10.27	東日本大震災関連プロジェクト 東日本大震災災害支援への感謝状 宮城県南三陸町長より
2021.1.23	子ども食堂応援プロジェクト ふくおか地域づくり活動賞 地域づくりネットワーク福岡県協議会より
2021.2.11	子ども食堂応援プロジェクト SYMボランティア奨励賞(文部科学大臣賞) 公益財団法人修養団(SYD)より
2021.3.1	平和の駅運動プロジェクト 2020年度北九州DGS未来都市アワード(DGS賞) 北九州市、北九州ESD協議会より
2021.7.30	防犯・防災プロジェクトMATE,s 安全安心なまちづくりへの活動に対する感謝状 北九州市長より
2021.12.23	防犯・防災プロジェクトMATE,s 二七電話詐欺の被害防止活動 (のほり旗作成)に対する感謝状 小倉商工会議所より
2022.1.22	いぬねこプロジェクト ふくおか地域づくり活動賞
2022.8.20	『食』から学ぼうプロジェクト 福岡県環境教育学会第25回年会 発表賞
2023.1.18	防犯・防災プロジェクトMATE,s 防犯活動に関する感謝状
2023.2.8	防犯・防災プロジェクトMATE,s 令和4年度福岡県青少年健全育成対策 推進本部長顕彰
2023.10.1	防犯・防災プロジェクトMATE,s 福岡県防犯協会連合会・福岡県警察生 活安全部長連盟表彰 『学生防犯ボランティア団体表彰』
2024.4.26 ~ 29	熊鷹災害支援派遣
2024.11.1 ~ 4	熊鷹災害支援派遣
2025.7.7	防犯・防災プロジェクトMATE,s 福岡県警察本部長表彰 『学生防犯活動団体感謝状』
2025.10.4	防犯・防災プロジェクトMATE,s 福岡県防犯協会連合会・福岡県警察本 部生活安全部長表彰 『学生防犯ボランティア団体表彰』
2025.12.14	KITAOQ『絆』復興応援プロジェクト Giving Campaign企業賞『MrTg賞』 北九大もつたないプロジェクト Giving Campaign企業賞『小倉センソ賞』
2026.2.2	防犯・防災プロジェクトMATE,s 『ふくおか共助社会』づくり表彰』

「地域活動のタイプ」について

地域の皆さんからお申し込みいただいた地域活動は、社会性や公共性（地域への貢献）、人材育成（学生への教育効果）などの観点から以下の2つのタイプに分けて、学生への周知や活動の広報などを行っています。また、これらの地域と連携したプロジェクトの他、オープンキャンパスなどの学内活動を教育プログラムとして取り組んでいるプロジェクトもあります。

短期型地域活動

1日～数日単位で行われる地域貢献（ボランティア）活動。地域からの要請を受けたセンターがメーリングリストや学内ポスターなどを通じて学生に情報を提供するとともに活動実施日まで、受け入れ先との調整を行う。

●短期型地域活動の一覧は、P44参照

プロジェクト型

地域社会への貢献を目的とした長期的なプロジェクトでありチームを組んだ複数の学生が地域団体と協力して活動を行う。地域での活動を通じ学生自身も学びと成長を得られるよう、センターが教育的な指導・サポートを行う。

- 421Lab.学生運営スタッフ
- 421Lab.英語で遊ぼうプロジェクト
- TFT×KitaQ univ.プロジェクト
- 防犯・防災プロジェクト(MATE's)
- KITAQキャンパスSDGs
- 地域クリーンアッププロジェクト
- こども知育プロジェクト
- 北九州文化観光プロジェクト
- みらいピースプロジェクト
- 子ども食堂応援プロジェクト
- KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト
- 北九大もったいないプロジェクト
- 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 421Lab.わくわくキッズプロジェクト
- 生理の貧困プロジェクト
- 国際交流プロジェクト FIVA
- 「食」から学ぼうプロジェクト
- 国際開発プロジェクトThaksina
- まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 動物福祉プロジェクト

地域共生教育センターの歩み

- 2010.4.1 地域共生教育センター設立
- 2010.4.21 地域共生教育センター開所式
- 2010.9 広報誌「FULL」創刊
- 2011.3.11 第二回北九州学生プレゼン大会で「会頭賞」（最高賞）を受賞
- 2011.4.21 東日本大震災が発生
- 2012.3 東日本大震災関連プロジェクト立ち上げ
- 2012.10.10 東日本大震災関連プロジェクト立ち上げ
- 2013.2 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2013.7.11 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2014.3.23 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2014.7.11 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.1.23 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.2.10 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.4.1 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.4.14 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.5.2～5 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.5.28～6.26 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.7.14 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.10.1 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.10.21 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.10.21 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.10.21 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.10.8～10 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.11.27 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2017.2.14 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2017.7.5 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2017.7.15～17 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2017.8.5～8 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2017.11 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2018.3 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2018.12.25 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰

地域につながる小さな一歩

短期型の地域活動

2025年度は120を超える短期型の地域活動を案内し、その中で83名の学生が参加しました。活動に参加することにより、地域とのつながりや大切さ、人とのコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。

活動名(内容)	主催者	参加人数
平成竹取伝説	北九州ピオトップネットワーク研究会	1
ハートフルコンサート	NPO法人 百瀬ミュージック	2
第20回血倉山健康ウォーク	血倉山健康ウォーク実行委員会・北九州市八幡東区役所	1
山田の森ぐらし	山田緑地管理事務所	2
第37回とばた菖蒲まつり	とばた菖蒲まつり実行委員会	1
かがやけ!えがおの輪!第21回ワンコインコンサート	百瀬ミュージックボランティアグループ	1
門司区子どもまつり	門司区子どもまつり実行委員会	1
プレイルーム【Rainbow-circus】	一般社団法人レインボーミル	1
令和7年度在宅肢体不自由児療育キャンプ学生ボランティア	福岡県肢体不自由児協会	1
北九州下関フェニックス試合運営ボランティア	北九州下関フェニックス	3
第18回撥川(ばちがわ)ホテル祭り	ラブリバー撥川ネットワーク	2
ハートグローブ北九州	NPO法人 じぶん未来クラブ	2
「好き」を子どもにvo.5	チャムズ	1
令和7年度北九州市教育支援室学生ボランティア	北九州市教育委員会不登校等支援センター	3
令和7年度南九州市・北九州市子ども交流事業	北九州市子ども家庭局子ども若者育成課	1
子どもの日本語教室「にほんごひろば」	公益財団法人 北九州国際交流協会	8
北九州キッズチャレンジパーク	北九州青年会議所	1
長崎街道"曲里の松並木"清掃	チームマツナミキ	2
絶滅危機から生物を救え!~生物のすみか守り隊~	響灘ピオトップ	1
第51回小倉南区子どもまつり	小倉南区子どもまつり実行委員会	3
わくわくサイエンスフェスタ2025秋	北九州市科学館(スペースLABO)	2
小倉城竹あかり	小倉城竹あかり実行委員会	1
わっしょい百万夏まつり	わっしょい百万夏まつり振興会	3
たいけん!はっけん!子ども博	子育てふれあい交流プラザ	2
子ども日本語教室「なつやすみにほんごひろば」	公益財団法人 北九州国際交流協会	2
北九州市立徳力小学校学校生活支援	北九州市立徳力小学校	1
北九州からあげ王座決定戦2025	北九州からあげ王座決定戦実行委員会	2
第22回北九州チャンピオンカップ国際車いすバスケットボール大会	公益財団法人 北九州市障害者福祉ボランティア協会	1
多世代交流「未来カフェ」	多世代交流「未来カフェ」実行委員会	4
KIAにほんごクラス会話ボランティア「にほんごパートナー」	公益財団法人 北九州国際交流協会	2
北九州エコライフステージ2025	北九州エコライフステージ実行委員会	1
われら海岸探偵団	まちのカルシウム工房	3
小倉城竹あかり2025	小倉城竹あかり実行委員会	2
竹結びプロジェクト	市民団体ヒト自然探求所	1
子ども食堂ボランティアスタッフ(あおぞら食堂)	株式会社ゴトウ ケアサポート木輪館あおぞら食堂	1
こども食堂えがお	こども食堂えがお 実行委員会	1
スペースLABOの宇宙フェスタ	北九州市科学館(スペースLABO)	1
ヤングサンタ	一般社団法人 青年経営者会議	5
令和8年北九州市二十歳の記念式典	北九州市・令和8年北九州市二十歳の記念式典実行委員会	3
第9回小学生チャレンジ駅伝大会	北九州市青少年市民会議	4
北九州市ふるさとかるた第14回小学生かるた大会	北九州市にぎわいづくり懇話会	1
"ムーブ映画祭"運営補助	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ	1
響ホール室内合奏団 定期演奏会	認定NPO法人 響ホール室内合奏団	1
合計		83

私が活躍できる場所、みつめました

421Lab.では、1日から参加できる短期の地域活動も学生に紹介しています。
学生がそれぞれ得意なことを活かしながら地域で活動している様子をご紹介します。

北九州市ふるさとかるた 第14回小学生かるた大会

今回「第14回小学生かるた大会」にスタッフとして参加し、北九州の良さについて再発見しました。私自身、地元が県外で、北九州の物産についてほとんど知識がありませんでした。しかし、本大会のかるたは、北九州の観光地や名物などを題材にした全45種類で構成されており、ひらがなを交えて親しみやすく表現されていたため、知見も広がりました。また、活動はペアで行うことが多く、スタッフ同士が協力しながら円滑に運営を進める重要性を学ぶ機会となりました。



文学部比較文化学科1年 立川 雅

ヤングサンタ

ヤングサンタに参加させていただきました。活動内容はサンタクロースの衣装を着て、北九州市内の児童養護施設と一般家庭を訪問させていただき、子どもたちにプレゼントを渡しました。サンタクロースとして子どもたちに接するのはとても緊張しましたが、子どもたちの驚きや喜びを引き出すことができ、貴重な体験をさせていただきました。これからも子どもたちが喜ぶような活動に意欲的に取り組んでいきたいと思えます。



法学部法律学科2年 嶋岡 滯

令和8年 北九州市二十歳の記念式典

今回の二十歳の式典では、来場者の入場補助を担当し、会場入口での誘導やチラシ配布、「おめでとうございます」と声をかけながら参加者を迎える活動を行いました。人生の節目となる大切な式典に関わることは初めてで、最初は緊張しましたが、笑顔で声をかけることで参加者の方々も笑顔で応えてくださり、温かい雰囲気の中で活動することができました。このボランティアを通して、一言の声かけや態度が相手の気持ちを和らげ、式典全体の印象を良くすることにつながると学びました。今後も相手の気持ちを考えた声かけや気配りを大切にしていきたいと思えます。



文学部人間関係学科1年 山内 陽音

スペースLABO宇宙フェスタ

活動内容は、月面探査機体験の補助やオリジナル缶バッジ作成の受付・補助を行いました。子どもたちが月面探査機に興味を持ち、質問する子が出ると「この経験がこの子の将来を決めるきっかけになるかもしれない。私自身も、小さい頃に体験したこと、刺激されたことでのちの将来に大きく影響した可能性がある。」と身をもって経験した経緯があります。少しの説明や受付だけでも、子どもたちの何かのきっかけになればいいなという思いで活動することができたと感じています。



経済学部経営情報学科2年 今仁 滯菜

2025年度地域共生教育センター活動記録

	会 議				研 修・報 告 会		SNS
	地域共生教育 センター会議	地域共生教育 センター運営部会	事務局会議	学生運営 スタッフ会議	学生説明会	運営スタッフ研修・報告会 (説明会・相談会)	Twitter Instagram note 更新回数
4月		第1回 4/23 第2回 4/28~5/2 (メール)	第1回 4/8 第2回 4/15 第3回 4/22	第1回 4/11 第2回 4/16 第3回 4/23 第4回 4/30		4/4、5、7、8 新入生向け相談会 4/16~4/30 プース説明会	Instagram 3回
5月		第3回 5/7~5/14 (メール) 第4回 5/21~5/25 (メール)	第4回 5/13 第5回 5/20 第6回 5/27	第5回 5/7 第6回 5/14 第7回 5/21 第8回 5/28		5/17 前期スタートアップ研修 5/21 SDGs修学旅行受入	note 2回
6月	第1回 6/25~7/2 (メール)	第5回 6/4	第 7回 6/3 第 8回 6/10 第 9回 6/17 第10回 6/24	第 9回 6/4 第10回 6/11 第11回 6/18 第12回 6/25	6/9~6/12 (同窓会助成金説明会) 交付決定通知及び 配当金配布	6/4 SDGs修学旅行受入 6/11、18、25 マナー講座 6/28 リーダー交流会 6/28 熱中症予防講座	note 2回
7月		第6回 7/10~7/16 (メール) 第7回 7/23~7/27 (メール)	第11回 7/1 第12回 7/8 第13回 7/15 第14回 7/22 第15回 7/29	第13回 7/2 第14回 7/9 第15回 7/16 第16回 7/23		7/9 小学生大学訪問 7/20、21 オープンキャンパス 「なんでも相談会」	note 4回
8月		第8回 8/29~9/4 (メール)	第16回 8/5	第17回 8/7			note 2回
9月		第9回 9/16~9/19 (メール) 第10回 9/30~10/3 (メール)	第17回 9/22 第18回 9/30	第18回 9/5 第19回 9/26			note 1回
10月		第11回 10/8	第19回 10/7 第20回 10/14 第21回 10/21 第22回 10/28	第20回 10/1 第21回 10/8 第22回 10/15 第23回 10/22 第24回 10/29		10/25 前期振り返り 後期スタートアップ	Instagram 1回 note 3回
11月		第12回 11/5	第23回 11/4 第24回 11/11 第25回 11/18 第26回 11/25	第25回 11/5 第26回 11/12 第27回 11/19 第28回 11/26	11/17~11/21 (ラボレター、FULL 原稿作成説明会)		Instagram 1回 note 3回
12月	第2回 12/18~12/23 (メール)	第13回 12/17	第27回 12/2 第28回 12/9 第29回 12/16 第30回 12/23	第29回 12/3 第30回 12/10 第31回 12/17 第32回 12/24		12/3 リーダー交流会 12/5 小学生大学訪問	note 2回
1月		第14回 1/21	第31回 1/6 第32回 1/13 第33回 1/20 第34回 1/27	第33回 1/14 第34回 1/21			note 2回
2月		第15回 2/4~2/8(メール) 第16回 2/18	第35回 2/3 第36回 2/17 第37回 2/24			2/10 地域活動発表会	Instagram 1回
3月							

パブリシティリスト・メディア掲載

福岡県警察本部「感謝状」



2025年7月7日受賞
防犯・防災プロジェクトMATE's

福岡県防犯協会連合会・ 福岡県警察本部生活安全部長表彰 「学生防犯ボランティア団体表彰」



2025年10月4日受賞
防犯・防災プロジェクトMATE's

Giving Campaign 「企業賞受賞」

「小倉セメント賞」



2025年12月14日受賞
北九大もったいないプロジェクト

「YMfg賞」



2025年12月14日受賞
KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト

地域の「チカラ」が必要です

お申し込みの流れ

421Lab.を通じて様々な形で地域社会に出た学生が、地域とつながり成長しています。また、この良い影響が学内にも広がり、地域活動に参加したいという声も多くなってきております。

この取り組みを広げていくためには、学生を受け入れてご指導くださる地域のフィールドが必要です。下記の流れに沿って地域活動の募集をお受けしていますので、ご不明な点は下記URLをご参照いただくか、お電話またはメールにてお問い合わせください。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/421/>



1. お申し込みの前に

地域活動の依頼をお受けするに当たり、学生が安全に活動できるように、いくつかの地域団体・活動の選定基準を設けています。新規でお申し込みいただく団体の皆様は、一度、421Lab.へお問い合わせの上、募集内容などをご相談ください。

2. 活動概要の提出

相談後、421Lab.の活動趣旨をご理解いただけましたら、「地域活動登録票」をご記入のうえ、活動報告書やパンフレットなどの団体・活動の実績が分かる書類、地域活動のチラシを合わせて、上記メールアドレスへ送付ください。提出いただいた資料を基に、メーリングリスト登録者へ配信可能か検討させていただきます。

3. 学生募集

教員の承認が取れましたら、メーリングリスト登録者へボランティア情報として配信させていただきます。また、相談に来た学生には、学生の関心やスケジュールに応じて紹介します。

4. マッチング

421Lab.もしくは地域活動を希望する学生より、直接ご担当者様へご連絡いたします。

北九州市立大学
地域共生教育センター

ラボ・レター

活動報告書 2025

この活動報告書は、421Lab. (ラボ) から地域の皆様と共に歩んでいきたい
という思いを込めたお手紙 (レター) のように作成しました。
これまでの活躍への感謝とこれから始まる新しい関係への、
私たちからのラブレターのように手に取っていただければ幸いです。



北九州市立大学 **地域共生教育センター**
Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)
[TEL] 093-964-4092 [FAX] 093-964-4221
[E-mail] info421@kitakyu-u.ac.jp
[OPEN] 10:00~18:00 (月~金)

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

www.kitakyu-u.ac.jp/421/

『Instagram』で活動の最新情報を発信中

https://www.instagram.com/421lab_official/



発行：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)

発行日：2026年3月

編集：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)

協力：プロジェクトに参加していただいた多くの皆様

制作：株式会社ゼロス